



Informatica® Informatica
10.0

リリースノート

Informatica Informatica リリースノート
10.0
2015 年 11 月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2018

発行日: 2018-10-25

目次

Abstract.....	v
第 1 章 : Informatica のインストール.....	6
サポートの終了.....	6
サービスのキータブファイルのエラーメッセージ.....	6
Windows でのインストール時のアプリケーションサービスの作成.....	7
別のデータベースへのドメイン環境設定リポジトリの移行.....	7
別のマシンへのノードの移行.....	8
アドレス検証ライブラリ.....	8
第 2 章 : Informatica のアップグレード.....	9
アップグレード後の最大ヒープサイズ設定のリセット.....	9
Informatica 9.6.1 からのアップグレード.....	9
バージョン管理を設定する前のモデルリポジトリのアップグレード.....	10
Informatica インストールを別のマシンに移行した後の Informatica ドメインのアップグレード.....	10
第 3 章 : Informatica の実装された拡張要求.....	11
Informatica インストールの実装された拡張要求.....	11
Big Data の実装された拡張要求.....	12
Informatica Analyst の実装された拡張要求.....	12
Informatica Data Quality の実装された拡張要求.....	12
Informatica Data Transformation の実装された拡張要求.....	13
Informatica Developer の実装された拡張要求.....	13
Informatica ドメインの実装された拡張要求.....	13
PowerCenter の実装された拡張要求.....	14
第 4 章 : Informatica の解消された制限事項.....	15
Informatica Analyst の解消された制限事項.....	15
Big Data の解消された制限事項.....	18
Informatica Data Quality の解消された制限事項.....	20
Informatica Data Transformation の解消された制限事項.....	20
Informatica Developer の解消された制限事項.....	20
Informatica ドメインの解消された制限事項.....	23
Metadata Manager の解消された制限事項.....	24
Design API の解消された制限事項 (10.0).....	28
Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項 (10.0).....	28
PowerCenter の解消された制限事項.....	29
第 5 章 : Informatica の既知の制限事項.....	32
Informatica Analyst の既知の制限事項.....	32

Big Data の既知の制限事項.	36
Informatica Data Transformation の既知の制限事項.	38
Informatica Developer の既知の制限事項.	38
Informatica ドメインの既知の制限事項.	46
Metadata Manager の既知の制限事項.	49
PowerCenter 10.0 の既知の制限事項.	51
Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項 (10.0)	52

第 6 章 : Informatica のサードパーティ製品に関する制限事項..... 53

Big Data サードパーティ製品に関する制限事項.	53
Informatica Developer のサードパーティ製品に関する制限事項.	54
Metadata Manager のサードパーティ製品に関する既知の制限事項.	55
PowerCenter のサードパーティ製品に関する制限事項.	55

第 7 章 : Informatica グローバルカスタマサポート..... 57

Abstract

このドキュメントには、Informatica 10.0 の制限された機能および既知の制限事項に関する重要情報が記載されています。

第 1 章

Informatica のインストール

この章では、以下の項目について説明します。

- [サポートの終了, 6 ページ](#)
- [サービスのキータブファイルのエラーメッセージ, 6 ページ](#)
- [Windows でのインストール時のアプリケーションサービスの作成, 7 ページ](#)
- [別のデータベースへのドメイン環境設定リポジトリの移行, 7 ページ](#)
- [別のマシンへのノードの移行, 8 ページ](#)
- [アドレス検証ライブラリ, 8 ページ](#)

サポートの終了

バージョン 10.0 では、32 ビット版 Windows 上の Informatica サービスおよび Informatica Developer (Developer tool) のサポートは終了しました。32 ビット版 Windows オペレーティングシステムが作動するマシン上に Informatica サービスまたは Developer tool をインストールすることはできません。

製品の要件およびサポートされているプラットフォームの詳細については、Informatica マイサポートポータル の Product Availability Matrix を参照してください。

<https://mysupport.informatica.com/community/my-support/product-availability-matrices>

サービスのキータブファイルのエラーメッセージ

アプリケーションサービスのキータブファイルが無効の場合、Informatica サービスインストーラに間違ったエラーメッセージが表示されます。

Informatica をインストールするときに次のオプションを使用すると、間違ったエラーメッセージが表示されます。

- Kerberos 認証を使用するドメイン
- プロセスレベルのサービスプリンシパル名 (SPN) とキータブファイル名
- モデルリポジトリサービスとデータ統合サービスの設定

インストーラは、アプリケーションサービスを作成するときに、そのサービスの SPN とキータブファイルを検証します。サービスのキータブファイルが有効ではない場合、ノードのキータブファイルについて次のエラーメッセージが表示されます。

Error !!! The node keytab file ...is not valid. Verify the location of the node keytab file and specify the correct directory.

このエラーメッセージは正しくありません。ノードのキータブファイルは有効ですが、アプリケーションサービスのキータブファイルは無効です。

(CR 442296)

Windows でのインストール時のアプリケーションサービスの作成

Windows に Informatica サービスをインストールし、インストール時にアプリケーションサービスを作成する場合、すべてのシステム要件とユーザー権限を確認する必要があります。

システムや権限の要件を満たさない場合、インストール時にモデルリポジトリサービスやデータ統合サービスが作成されません。エラーメッセージが表示され、インストールが終了します。

回避策: Informatica サービスのインストールを開始する前に、Informatica サービスのインストール先マシンがすべてのシステム要件を満たし、インストーラを実行するユーザーアカウントに正しい権限が付与されていることを確認してください。

(CR 441874)

別のデータベースへのドメイン環境設定リポジトリの移行

アップグレード時に IBM DB2 または Microsoft SQL Server のドメイン環境設定リポジトリを別のデータベースへ移行する場合、状況によってはサイレントモードでアップグレードできません。

次の状況では、バージョン 10.0 をサイレントモードでアップグレードできません。

- ドメイン環境設定リポジトリが IBM DB2 にあり、リポジトリを複数パーティションのデータベースから単一パーティションデータベースに移行する。
- ドメイン環境設定リポジトリが Microsoft SQL Server にあり、リポジトリをカスタムスキーマのデータベースからデフォルトスキーマのデータベースに移行する。

回避策:

- Windows の場合、Informatica ドメインをグラフィカルモードでアップグレードします。
- UNIX の場合、Informatica ドメインをコンソールモードでアップグレードします。

(CR 440711)

別のマシンへのノードの移行

Informatica 10.0 にアップグレードし、ノードを別のマシンに移行する場合は、**[アップグレード前のチェックの有効化]**オプションを選択しないでください。

アップグレード時にノードを別のマシンに移行する場合、アップグレードウィザードはアップグレード前のチェックを正しく実行できません。アップグレード前のチェックを有効にするオプションを選択すると、アップグレードウィザードは正しくないドメインのサービスに関する情報をチェックします。

Informatica 10.0 へのアップグレード時に別のマシンへノードを移行する方法の詳細については、Informatica をアップグレードする前のバージョンの『Informatica アップグレードガイド』を参照してください。

(CR 428476)

アドレス検証ライブラリ

Informatica Data Quality 10.0 と PowerCenter 10.0 は、AddressDoctor ソフトウェアライブラリのバージョン 5.7.0 を使用します。

AddressDoctor 5.7.0 ライブラリは、郵便アドレスを以下の認定基準に対して検証します。

- Address Matching Approval System (AMAS) サイクル 2015、オーストラリア。
- Coding Accuracy Support System (CASS) サイクル N、米国。
- National Address Management Service (SNA)、フランス。
AddressDoctor ライブラリは、フランスの住所を次のレベルまで認定できます。
CEDEX A。組織レベルまで認定。
Hexacle。番地レベルまで認定。
Hexaposte。郵便番号レベルまで認定。
Hexavia。町名レベルまで認定。
- SendRight サイクル 2015、ニュージーランド。
- Software Evaluation And Recognition Program (SERP) サイクル 2015、カナダ。

第 2 章

Informatica のアップグレード

アップグレード後の最大ヒープサイズ設定のリセット

Informatica バージョン 10.x にアップグレードするとき、アップグレードプロセスが大量のヒープ領域をコンシュームします。アップグレードプロセスは自動的に最大ヒープサイズを 4 GB に設定します。

アップグレードプロセスが終わったら、モデルリポジトリの最大ヒープサイズのプロパティをアップグレード前の設定か、または推奨値の 1 GB にリセットしてください。

(CR 443268)

Informatica 9.6.1 からのアップグレード

バージョン 9.6.1 からアップグレードするときにノード設定を変更しない場合、ドメイン環境設定リポジトリがセキュアデータベースにあると、アップグレードを完了できません。データベースへの接続に失敗します。

回避策: アップグレード時に、ノード設定への変更を許可するオプションを選択します。

Informatica ドメインのアップグレード方法に応じて、次のいずれかのタスクを実行します。

- Informatica ドメインをグラフィカルモードでアップグレードする場合は、[アップグレードディレクトリ] ウィンドウの [ノード設定への変更を許可します] オプションを選択します。
- Informatica ドメインをサイレントモードでアップグレードする場合は、`SilentInput_upgrade_newConfig.properties` ファイルの `UPG_DIFF_CONFIG` プロパティが 1 に設定されていることを確認します。
- Informatica ドメインをコンソールモードでアップグレードする場合は、[アップグレードディレクトリ] セクションの [ノード設定への変更を許可します] オプションを選択します。

(CR 442475)

バージョン管理を設定する前のモデルリポジトリのアップグレード

Informatica 10.0 へのアップグレード後、モデルリポジトリをアップグレードする必要があります。

Informatica を 10.0 にアップグレードし、モデルリポジトリをアップグレードする前にバージョン管理を設定しようとする、バージョン管理を正しく設定できません。

モデルリポジトリを 10.x にアップグレードしてからバージョン管理を設定してください。

(CR 438351)

Informatica インストールを別のマシンに移行した後の Informatica ドメインのアップグレード

次の条件があてはまる場合、インストーラはホストマシンに Ping できません。

- Informatica ドメインを別のマシンに移行した。
- **【ノード設定への変更を許可します】** と **【アップグレード前のチェックの有効化】** オプションを有効にした。
- 新しいホストマシンと古いホストマシンが同じユーザーアカウントを共有している。

回避策: エラーを無視し、アップグレードを続行します。

(CR 431565)

第 3 章

Informatica の実装された拡張要求

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica インストールの実装された拡張要求, 11 ページ](#)
- [Big Data の実装された拡張要求, 12 ページ](#)
- [Informatica Analyst の実装された拡張要求, 12 ページ](#)
- [Informatica Data Quality の実装された拡張要求, 12 ページ](#)
- [Informatica Data Transformation の実装された拡張要求, 13 ページ](#)
- [Informatica Developer の実装された拡張要求, 13 ページ](#)
- [Informatica ドメインの実装された拡張要求, 13 ページ](#)
- [PowerCenter の実装された拡張要求, 14 ページ](#)

Informatica インストールの実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
371269	インストール前システムチェックツール (i9Pi) がデータベースへのアクセスをテストするときに、ドメイン環境設定リポジトリがデータベースに存在するかどうかチェックされる。
371266	インストール前システムチェックツール (i9Pi) で、データベースへのアクセスをテストするために作成したテストテーブルとビューの名前が表示され、さらにテスト後にそのテーブルとビューを削除することが明確に示される。

Big Data の実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
437775	Hadoop 接続が正しく設定されていない場合にエラーが記録されない。
436917	Blaze マッピングに失敗すると、統合サービスでグリッドマッピングを実行できなかったことを示すメッセージが Developer tool に表示される。

Informatica Analyst の実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
428544	複数のカスタムリレーションを使用して、ビジネス用語を別のビジネス用語にリンクできる。
405754	Metadata Manager の関連するカタログオブジェクトの変更に関する情報が [用語集] ワークスペースの監査履歴に表示される。

Informatica Data Quality の実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
428315	Analyst ツールの例外タスクおよびクラスタタスクの各カラムの幅を変更する、タスクデータを水平方向にスクロールする、タスクインスタンスのリストのカラムの幅を変更する、およびそのデータをスクロールすることができる。
411466	ルール仕様のプライマリルールセットでルール仕様の名前がデフォルトで使用される。

Informatica Data Transformation の実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
436599	複合ファイルオブジェクトから入力を取得するデータプロセッサトランスフォーメーションのデータプレビューが Kerberos 対応環境で失敗する。

Informatica Developer の実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
436775	CTRL + Z を使用して、式エディタでパラメータ化されたジョイナトランスフォーメーション条件に入力したテキストを元に戻すことができる。
410806	Developer tool から、1 GB を超えるモデルリポジトリに接続する場合のパフォーマンスが向上している。

Informatica ドメインの実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
426822	データ統合サービスがグリッドで実行される場合に競合を回避するために、マスタデータ統合サービスプロセスでワーカーサービスプロセスの不完全なジョブのクリーンアップ操作を実行する。
425615	Informatica ドメインで Kerberos 認証が使用されていると、ユーザーが複数の Microsoft Active Directory グループに属することができる。

PowerCenter の実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
432733	Oracle 11g データベースを使用する場合、NLS 検証がデフォルトで有効になる。
420619	Informatica DiscoveryIQ によって機密保持データベースを node_jsf.log ファイルへ出力することができなくなった。

第 4 章

Informatica の解消された制限事項

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica Analyst の解消された制限事項, 15 ページ](#)
- [Big Data の解消された制限事項, 18 ページ](#)
- [Informatica Data Quality の解消された制限事項, 20 ページ](#)
- [Informatica Data Transformation の解消された制限事項, 20 ページ](#)
- [Informatica Developer の解消された制限事項, 20 ページ](#)
- [Informatica ドメインの解消された制限事項, 23 ページ](#)
- [Metadata Manager の解消された制限事項, 24 ページ](#)
- [Design API の解消された制限事項 \(10.0\) , 28 ページ](#)
- [Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項 \(10.0\) , 28 ページ](#)
- [PowerCenter の解消された制限事項, 29 ページ](#)

Informatica Analyst の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
436458	高度な結合条件と OR を併用して、マッピング仕様の 2 つの結合条件を接続すると、エラーが発生する。
430107	Analyst ツールのアセットリストにオブジェクトが 60 個しか表示されない。
429956	参照ユーザーは書き込み権限のないアセットを検索できない。
429912	検索サービスに用語集アセットの最新バージョンが表示されない。
429337	Developer tool でフラットファイルデータオブジェクトを更新し、変更をモデルリポジトリに保存しても、Analyst ツールに変更が表示されない。

CR	説明
429300	検索サービスで二重引用符を使用した Business Glossary アセットの検索がサポートされない。
428938	カラム名が 28 文字を超えていると、Analyst ツールで Oracle テーブルのカラムを表示できない。
428330	参照テーブルの監査証跡データに javascript 文字列が含まれている場合、監査証跡データをプレビューすると、スクリプトが実行される。
428327	参照テーブルのデータに javascript 文字列が含まれている場合、データをプレビューすると、スクリプトが実行される。
427538	用語集をロードすると、用語集アセット用に作成したカスタムプロパティが Metadata Manager に表示されなくなる。
426453	管理者以外のユーザーとしてログインすると、Analyst ツールのログに「アクセスが拒否されました」というメッセージが表示される。
426423	以前に拒否されたカテゴリにビジネス用語を割り当てると、そのカテゴリのパブリッシュされたバージョンと拒否されたバージョンの両方へのリンクが Analyst ツールで作成される。
426108	Business Glossary の【管理者】特権を持たないユーザーは、【ドラフトの表示】特権が割り当てられるまで、パブリッシュされているアセットを検索できない。
425920	Administrator ツールで【グローサリの管理】特権を指定して新規作成されたユーザーは、【用語集】ワークスペースのアセットを表示することはできるが、検索はできない。
425700	Developer tool で作成された接続オブジェクトを編集できない。
425389	日付データ型の日付の値が空のカスタムプロパティを含む用語集をエクスポートすると、Analyst ツールはエクスポートファイルの日付に 01/01/1970 を割り当てる。
425024	ブラウザのロケールが簡体字中国語で、インターネットにアクセスできない場合に、オンラインヘルプを表示できない。
424844	スコアカードを実行してエクスポートすると、メトリック内の無効なデータのコストが Excel スプレッドシートに -1.0 と表示される。
423704	管理者以外のユーザーが検索を実行すると、Informatica Analyst で検索結果が返されない。
423407	複数のノードがあるドメインで実行される Analyst ツールから【ジョブステータス】ページにアクセスすると、次のエラーが発生する。 HTTP ステータス 404 - 監視サービスに接続できませんでした。
422615	モデルリポジトリサービスで Oracle データベースを使用していると、Analyst ツールで 1000 個を超えるリレーションをビジネス用語に追加できない。
421984	管理者ではないユーザー名で Analyst ツールにログインしている場合、【タスク管理】タブで管理するヒューマンタスクのインスタンスを表示できない。
419217	Analyst ツールで、改訂済みで【確認中】フェーズに入っているにもかかわらず、用語集アセットの改訂が可能である。

CR	説明
415023	カスタムプロパティを編集し、検索構文でサポートされていない特殊文字を入力すると、Analyst ツールでエラーが表示され、応答が停止する。
414081	Metadata Manager サービスと検索サービスを同じドメインで設定すると、Analyst ツールの応答が停止することがある。
412457	4000 個を超えるアセットリンクが含まれるエクスポートファイルからビジネス用語集をインポートすると、次のエラーが表示される。 有効なライセンスがないと続行できません。
412456	Business Glossary のインポートウィザードに表示されるアセット数がエクスポートファイルのアセット数と一致しないことがある。
412453	用語集をインポートして、競合の解決中に 【アセットをインポートしないでください】 オプションを選択すると、Analyst ツールでカスタムプロパティのデータがインポートされず、競合の解決中に 【アセットの置換】 オプションを選択すると、Analyst ツールにエラーが表示される。
411937	用語集エクスポートファイルを Analyst ツールにインポートすると、エクスポートファイルのコンテンツが含まれるカスタムプロパティが空白になる。
411848	ビジネス用語テンプレートに追加するカスタムプロパティがビジネス用語集エクスポートファイルに存在しないことがある。
408491	Microsoft SQL Server のデータ型「日時 2」型に関して、Analyst ツールがマッピング仕様からフラットファイルに間違ったデータをエクスポートする。
404427	用語集アセットを保存するとき、Analyst ツールはユーザーが複数値のカスタムプロパティに必須値を入力したかどうかを検証しない。
402086	競合の解決中にアセットを置き換えることを選択した場合、エクスポートファイルにドラフトフェーズのアセットが含まれていると、Business Glossary のインポートタスクに失敗する。
399736	データ統合サービスでプロファイルウェアハウスが設定されていないと、モデルリポジトリから参照テーブルデータをエクスポートできない。
399220	ルール仕様をテストするとき、Analyst ツールに、ルール仕様に適用する検証エラーが表示されないことがある。この問題は、検証問題を含むルール仕様をテストする前に複雑なルール仕様をテストした場合に発生する。
398993	用語集アセットの説明に特殊文字または 256 文字を超える文字が含まれていて、モデルリポジトリサービスデータベースが DB2 の場合、Business Glossary のインポートタスクに失敗する。
398801	ルール仕様の入力を作成する場合、入力プロパティを設定していないと、[OK] をクリックして設定ダイアログボックスを閉じることができない。
398800	次の方法でアクションを設定すると、ルール仕様のルール文でアクションの入力が表示されない。 - アクションに 2 つの入力を追加する。 - 2 番目の入力に値を指定しない。
398555	ルール文を更新できず、1 回の操作のルールセットのルール文の位置を変更できない。

CR	説明
397562	Analyst ツールで参照テーブルを使用するルール仕様を扱うとき、断続的にエラーが発生する。このエラーは、ルール仕様を保存するか、ルール仕様をコンパイルするか、ルール文のアクションを編集するときに発生することがある。
397132	プロジェクトフォルダの 2 つのルール仕様に同じ名前のルールセットが含まれる場合、Analyst ツールが 2 つのうち 1 つのルール仕様をコンパイルできない。
396562	クラスタタスクで作業し、カラムフィルタとして文字列値または日付値を入力する場合、フィルタ操作が失敗することがある。
393592	管理者 ユーザーがスコアカードをクリックしてスコアカードの結果を表示する場合、スコアカードの結果が 3~4 分遅れて表示される。
391845	ルール仕様を検証する際に、Analyst ツールは無効なルールセットの識別に失敗することがある。この問題は次の条件が当てはまる場合に発生します。 <ul style="list-style-type: none"> - 子ルールセットのルール文は複数のデータ型で出力を生成する。 - 親ルールセットは子ルールセットから出力を読み取らない。
391737	モデルリポジトリのフォルダ間でルール仕様を複数回移動すると、Analyst ツールは内部エラーを生成することがある。
390895	javascript 文字列をルール仕様の入力名として入力できる。
375053	ヒューマンタスクによって、パスワードで暗号化された IBM DB2 データベースにタスクメタデータが保存される場合、Analyst ツールでヒューマンタスクインスタンスを開くことができない。
368494	Microsoft Excel をインストールしていない場合に Business Glossary エクスポートファイルをインポートしようとすると、Analyst ツールでエラーが発生する。
358836	所有者のいないヒューマンタスクインスタンスを解放しようとすると、Analyst ツールにエラーメッセージが表示される。
357362	参照テーブルの行を編集するオプションを選択したとき、選択した行ではない別の行が Analyst ツールで表示されることがある。この問題は、編集する行を選択した後で参照テーブルの行をアルファベット順にソートした場合に発生する。
354335	同じルール仕様のルールセットと同じ名前の入力を作成したり、同じルール仕様の入力と同じ名前のルールセットを作成したりできる。
325751	Analyst ツールでファイルソースから参照テーブルを作成する場合に、ファイルに 10 進型のデータカラムが含まれていると、[新しい参照テーブル] ウィザードでデータ型が数値として認識される。このカラムに設定した精度とスケールが正しくないと、ウィザードが明確なエラーメッセージを表示しない。

Big Data の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
436727	フラットファイルソースからの読み取りおよび HDFS ターゲットへの書き込みを行うマッピングの実行が CDH 5 クラスタで失敗する。
436591	JDBC 接続を使用する Teradata ルックアップを含むマッピングが Hadoop 環境で失敗する。
435409	UUID_UNPARSE 関数を含むマッピングが Hadoop 環境で NULL 値を返す。
428733	Monitoring ツールで、Hadoop 環境のマッピングが完了しているのにマッピングのステータスが実行中として表示される。
412972	Hadoop 環境で実行されているマッピングが完了しているのに、ファイルが Hive スクラッチディレクトリから削除されない。
412955	SQL オーバーライドおよびジョイナトランスフォーメーションのあるソースが含まれるマッピングが Hadoop 環境で失敗する。
409976	JDBC のソースとターゲットが Hive 環境にあるマッピングを実行するとき、Hortonworks バージョン 2.2 でマッピングが失敗し、ジョブログに次のエラーが記録される。 2015-01-13 17:23:08,919 INFO [IPC サーバーハンドラ 5/50241] org.apache.hadoop.mapred.TaskAttemptListenerImpl: 次からの診断レポート attempt_1421061665984_0216_m_000000_0: エラー: java.io.IOException: マッピングの実行が次のエラーにより失敗しました: ODL_26128 オブジェクト [insplash_stghdlr_base] との接続で次のエラーメッセージでデータベースのエラーが発生しました: [データ統合サービスはオペレーティングシステム [LINUX] 用のアダプタ [com.informatica.adapter.infajdbc.InfajDBCConnectInfo] のランタイム OSGi バンドルを見つけることができませんでした。アダプタのランタイム OSGi バンドルをコピーし、plugin.xml ファイルで正しいライブラリ名を設定していることを確認してください。
409290	Developer tool で HDFS 接続をテストしても、NameNode URI が正しいかどうかを検証されない。
408827	Hive、HBase、HDFS、または複雑なファイルソースを持ち、ユーザー偽装が構成されたマッピングにデータプレビューを実行すると、データ統合サービスはデータ統合サービスユーザーの SPN を利用してデータプレビューを実行する。
406197	Hadoop 環境でマッピングを実行しても、参照テーブルが Hive ウェアハウスディレクトリから削除されない。
405152	データ統合サービスをアップグレードすると、データ統合サービスのプロパティに [Hadoop Kerberos キータブ] および [Hadoop Kerberos サービスプリンシパル名] プロパティが表示されなくなる。
405008	Cloudera CDH 5.2 で Enterprise Discovery の一環としてデータドメイン検出プロファイルを実行すると、プロファイルが失敗し、ランタイムエラーが発生する。
403303	データマスキングトランスフォーメーションを含むマッピングの実行が Hadoop 環境で失敗する。
399626	hive.exec.scratchdir が Hive 接続で指定されているユーザーのスクラッチディレクトリを使用しない。結果的に、ユーザーの権限に起因してマッピングが失敗する。

Informatica Data Quality の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
442085	アプリケーションのオブジェクトにパーサトランスフォーメーションが含まれている場合、モデルリポジトリのアプリケーションを置き換えると、この操作でトランスフォーメーションストラテジのポートが削除されることがある。
436502	ワークフローの実行の間に例外管理マッピングのソースまたはターゲットテーブルのカラムメタデータを更新した場合、アナリストサービスおよびデータ統合サービスをリサイクルする必要がある。
382829	ID 照合マッピングを実行する Web サービスにデータ要求を送信すると、各 Web サービス要求の一致ペア数がゼロにリセットされない。
324161	ワークフローで 10,000 タスクのような大量のタスクをユーザーに割り当てると、Analyst ツールによるタスクリストの表示に時間がかかる。

Informatica Data Transformation の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
417156	対応する DT プロジェクトにない追加の出力ポートがある UDT が原因で、9.1.0 から 9.6.1 にアップグレードした後でクラッシュが発生する。
407307	文のタイプのグループの XMAP 入力式が 1024 文字を超えていると、Developer がハングする。

Informatica Developer の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
433364	アドレスバリデータトランスフォーメーションからの出力をプレビューすると、[番地 1] ポートのデータによって、隣接するポートのデータが含まれるプレビューの場所が変更されることがある。この問題は、以前のプレビューの後で [番地 1] ポートをクリアし、現在のプレビューの前にポートを再度選択すると発生します。
430635	7 MB を超えるサイズの応答メッセージを受信すると、REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションのパフォーマンスが低下する。
428839	ワークフロー変数またはパラメータを使用して、動的な電子メール受信者を通知タスクの CC または BCC フィールドに割り当てることができない。
420911	データ統合サービスで REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションの HTTP プロキシサーバーの詳細が無視され、ベース URL に直接接続される。
412954	次の条件が当てはまる場合、スコアカードに結果が表示されない。 1. 9.5.x バージョンでスコアカードを作成する。IDPV_SCORE_SMRY ビューにスコアカードの最新の結果が表示される。 2. ドメインのバージョンを 9.5.x から 9.6.x にアップグレードする。 3. IDPV_SCORE_SMRY ビューを開く。
410593	最適化が有効な場合と無効な場合で、動的ルックアップトランスフォーメーションが異なる結果を返す。
410662	マスタ行の数がキャッシュサイズよりも大きいと、ジョイナトランスフォーメーションで返されるソート済み結合の行が重複する。
410593	最適化が有効な場合と無効な場合で、動的ルックアップトランスフォーメーションが異なる結果を返す。
409560	エンタープライズ検出を実行し、プロファイルの 1 つが失敗すると、Developer tool はエンタープライズ検出プロファイルのステータスを「実行中」として、失敗したプロファイルのステータスを「待機中」として無期限に表示します。
409450	Informatica ドメインをアップグレードし、モデルリポジトリをアップグレードしないとき、モデルリポジトリに接続しようとする、間違っエラーメッセージが表示される。正しいエラーメッセージは次のようになる:「リポジトリへの接続に失敗しました。リポジトリサービスのリポジトリコンテンツにはアップグレードが必要です。」
409376	infacmd AddParameterSetEntries コマンド、infacmd DeleteParameterSetEntries コマンド、infacmd ListParameterSetEntries コマンドを連続して複数回実行すると、いずれかのコマンドが予期せず失敗する。この問題は、これらのコマンドのいずれかの組み合わせで発生する可能性があります。
409244	トランスフォーメーションにカスタム要求ヘッダーがあり、入力に複数のレコードが含まれている場合、REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションで生成される要求ヘッダが重複する。
409021	次の方法で一致トランスフォーメーションを設定すると、ID 一致マッピングに失敗する。 - 2 つの情報源に基づき ID を照合するようにトランスフォーメーションを設定する。 - ID 照合ストラテジで複数の入力ポートペアを選択する。
408836	ルックアップトランスフォーメーションの初期化後にルックアップトランスフォーメーションで参照テーブルを変更することができない。

CR	説明
406825	クイックアウトラインを表示し、フラットファイルデータオブジェクトの列に関する詳細を探るとき、アクションの一覧でオプションの「名前によるソート」または「タイプによるソート」が利用できないことがある。
405168	情報源が 2 つの ID 分析から情報源が 1 つの ID 分析に一致トランスフォーメーション設定を変更すると、情報源が 2 つの出力ポートがトランスフォーメーションに残る。
404848	「整数」列に基づくマップレットルールをデータ型が「文字列」のソース列に適用すると、Developer tool がランタイムエラーメッセージを生成する。
402351	複雑なマッピングの場合、コンパイルの完了までに時間がかかることがある。
400393	一致トランスフォーメーションを設定し、ID ポピュレーションファイルのロードを拒否すると、Developer tool に有用なメッセージが表示されない。
399794	アグリゲータトランスフォーメーションの出力ポートのデータ型が 10 進型から倍精度浮動小数点数型に変わる。 回避策: ポートのデータ型を 10 進型に変えます。
397596	DB2 マッピングでバイナリポートを接続せず、プッシュダウンの最適化レベルを完全または通常に設定すると、エラーが出て、マッピングが失敗する。
396418	スキーマの異なる 2 つの Netezza テーブルで検索するとき、エラーが出て、ルックアップトランスフォーメーションが失敗する。
395489	アグリゲータトランスフォーメーションで非集計関数を使用し、GROUP BY 句を選択しないとき、Developer tool が検証エラーを返さない。マッピングを実行すると、次のエラーメッセージが出て失敗する。 Problem communicating with Data Integration Service [<domain name>.<Data Integration Service name>]. [JSF_0080] The service framework will not retry the request because the connection was not restored during the reconnection timeout period.
393590	アドレスバリデータトランスフォーメーションで実行インスタンスを複数指定すると、トランスフォーメーションは次のポートで出力を生成しない。 郡の FIPS（連邦情報処理規格）コード
392156	一致トランスフォーメーションでパフォーマンス照合分析を行うとき、データ統合サービスは、プロファイルウェアハウスの分析結果を消去しない。
392153	キージェネレータトランスフォーメーションでパフォーマンス照合分析を行うとき、データ統合サービスは、プロファイルウェアハウスの分析結果を消去しない。
392084	Developer tool でワークフローの設定を開始し、ワークフローが完了する前にドメインが再起動すると、モデルリポジトリでワークフローオブジェクトが正しく保存されない。
391616	Aggregator トランスフォーメーションが出力ポートで行エラーを生成すると、データ統合サービスはポートのデフォルト値を無視する。
385604	入力を設定するときや、ルール仕様のテストデータを入力するときに、Tab キーを使用してデータフィールド間を移動できない。
383814	リレーショナルデータソースから分類子モデルにデータを追加できない。

CR	説明
324517	パターンベースの解析モードでパーサートランスフォーメーションの重複パターンを入力する場合、入力フィールドの外側をクリックできず、トランスフォーメーションに有用なメッセージが表示されない。
235924	Developer tool は、参照テーブルをパラメータとして指定できる。Developer tool は、マッピングを実行するかマッピングに対するプロファイルを実行するかに応じて、パラメータ設定を異なるタブから読み取ります。 マッピングを実行すると、Developer tool は [パラメータ] タブのパラメータを探します。マッピングオブジェクトからの出力をプロファイリングすると、Developer tool は [設定] タブのパラメータを探します。

Informatica ドメインの解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
439165	マスタデータ統合サービスプロセスが実行されるノードのリソースが少なくなると、別のノードでマスタサービスプロセスを実行できるように、マスタサービスプロセスがシャットダウンすることがある。
434790	マスタコンテンツ管理サービスのフラグを true に設定するとき大文字を使用すると、参照テーブルに対してデータの読み取りおよび書き込みを行うことができない。
425043	Administrator ツールに XSS の脆弱性があり、ユーザーがスクリプトを応答ページに挿入できる。
413665	Windows の空の間接ファイルから読み取るマッピングを実行すると、サービスが再起動するまでデータ統合サービスでファイルがロックされる。
413056	コマンドラインからワークフローインスタンスを実行するときに wait [-w] オプションを含めると、ワークフローの成功または失敗に関係なく、ワークフローでゼロが返される。
409337	pmcmd startworkflow コマンドを使用してワークフローを開始すると、次の条件が当てはまる場合に pmcmd コマンドでファイル記述子が閉じず、ファイル記述子のリークが作成される。 - Informatica ドメインに複数のノードがある。 - 安全な通信のために Informatica ドメインで TLS 暗号化が使用されている。
405561	distinct 句が含まれる SQL 文を実行して SQL データサービスにアクセスする場合、個別のローカルプロセスでジョブを実行するようにサービスが設定されていると、データ統合サービスで一意的なキャッシュファイル名が生成されない。
399781	モデルリポジトリサービスを無効にするまでモデルリポジトリのバックアップファイルを削除できない。

CR	説明
398285	<p>次の条件が当てはまるとき、グリッドでデータ統合サービスを開始できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - モデルリポジトリが Microsoft SQL Server データベースにある。 - Microsoft SQL Server データベースで名前が付いたインスタンスが使用される。 - JDBC URL にデータベースインスタンス名とポート番号が含まれる。 <p>データ統合サービスが次のエラーで失敗する。</p> <p>[SQLServer JDBC Driver]Conflicting connection information. When the instance name is specified, it is invalid to specify the port number.</p>
396294	<p>Administrator ツールで JDBC 接続のプロパティを変更し、その接続を使用するとき、次のエラーが表示される。</p> <p>[Informatica][<JDBC driver name>] An invalid password was specified (password length cannot be zero).</p>
347720	Informatica サービスが開始すると、Informatica ドメインで Microsoft SQL Server の空の一時テーブルが作成される。

Metadata Manager の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
438133	<p>9.6.1 HotFix 2 Cloudera Navigator リソースのアップグレードは、Metadata Manager リポジトリのデータベースタイプが Oracle の場合、次のエラーで失敗する。</p> <p>[informatica][Oracle JDBC Driver][Oracle]ORA-01452: CREATE UNIQUE INDEX を実行できません。キーの重複が検出されました</p>
435223	<p>Metadata Manager リポジトリのデータベースタイプが IBM DB2 9.7 の場合、9.6.1 HotFix 1 からアップグレードされた PowerCenter リソースへのリンクが次のエラーで失敗する。</p> <p>[informatica][DB2 JDBC Driver][DB2]指定された名前 (RTRIM) および対応する引数の関数またはプロシージャは検出されませんでした。</p>
434659	<p>Microsoft Analysis およびレポートサービスのリソースのロードが、次のエラーで失敗する場合があります。</p> <p>ERROR MimbUtil - インポートモデル' /<name>'をロードできませんでした。サーバーエラー: '[MIRSDK_F0006] 不正な引数: 分類子にはこの名前の Feature がすでに含まれています'</p>
434142	複数の Teradata データベースを含んだ Teradata リソースのロードが、メモリ不足の例外により、完了しないか失敗する場合があります。
433695	テーブルがマクロ定義内の INSERT または DELETE 句で使用されているとき、Metadata Manager でマクロとテーブル間のデータリネージュが表示されない。
432717、 423638	<p>Informatica プラットフォームリソースのロードが次のエラーで失敗する。</p> <p>プロパティ式が複数値の参照に対して定義されています: {characteristics[@inf.type='com.informatica.metadata.common.runtime.RuntimeCharacteristic']@selectedExecutionEnvironmentName}</p>

CR	説明
431501	PowerCenter ソース修飾子トランスフォーメーションがマルチレベル SQL クエリを含んでいるとき、サブクエリにエイリアス名が使用されていると、Metadata Manager で、PowerCenter ソース修飾子トランスフォーメーションのデータリネージュリンクが表示されない。
431083	Metadata Manager サービスが Linux で実行されている場合、Cloudera Navigator リソースが大量のディスク容量を消費する。
430874	PowerCenter ソース修飾子のクエリに WITH 句が含まれている場合、Metadata Manager で Oracle ソースと PowerCenter ソース修飾子トランスフォーメーション間のデータリネージュリンクが表示されない場合がある。
430440	Sybase ビューに複数のサブクエリが含まれている場合、Metadata Manager で Sybase ビューと対応するテーブル間のデータリネージュリンクが表示されない。
430436	Metadata Manager で、Oracle ビューとテーブル間のデータリネージュリンクが表示される場合でも、Oracle ビューカラムとテーブルカラム間のデータリネージュリンクが表示されない場合がある。
430310	PowerCenter ルックアップテーブルの名前をパラメータでオーバーライドすると、Metadata Manager で PowerCenter ルックアップトランスフォーメーションとソーステーブル間のデータリネージュリンクのいくつかが表示されない。
429632	PowerCenter ソース修飾子トランスフォーメーションにパラメータ化された SQL クエリのオーバーライドが含まれている場合、Metadata Manager で Oracle ソースと PowerCenter ソース修飾子トランスフォーメーション間のデータリネージュリンクが表示されない。
425940	PowerCenter リソースと Netezza リソース間のルールベースのリンクが、次のエラーで失敗する。 [Stitch] ERROR PostLoadTaskRunner - リソース<name>用のロード後のタスク StitcherTaskHandler を実行できませんでした
425324	Metadata Manager リポジトリのデータベースタイプが IBM DB2 9.7 または 10.5 の場合、次のエラーで Metadata Manager サービスの有効化に失敗する。 [PERSISTENCEAPI_0307] [PERSISTENCECOMMON_0001]内部エラー。要求の処理が失敗しました。これは [informatica][DB2 JDBC Driver][DB2]CURSOR C024 NOT IN PREPARED STATE によって生じています。
425272	mmRepoCmd restoreRepository コマンドを実行して、無効なコミット間隔を指定したとき、次にコミット間隔を指定せずにこのコマンドを再実行すると、正しくないコミット間隔が維持される。
425050	Metadata Manager では Teradata テーブルの名前が 30 文字に切り詰められる。
424442	rmu または rcfmu を実行して Sybase PowerDesigner リソースを Metadata Manager 9.5.x から 9.6.1 HotFix 3 に移行すると、移行に失敗する。
424356	ビュー内の FROM 句に 2 つの連続するピリオド (..) が含まれているとき、Metadata Manager でテーブルとビュー間のデータリネージュリンクが表示されない。
423831	【レポートの表示】 ボタンを押しても JasperReports Server の正しい URL が開かれない場合がある。
423657	データリネージュ図を更新したり、Metadata Manager をログアウトしてからログインしたりしても、リンクの実行後 Metadata Manager にキャッシュされたデータリネージュ図が表示されることがある。

CR	説明
423600、 423099	Microsoft SQL Server ビューカラムの定義に角括弧が含まれている場合、Metadata Manager で Microsoft SQL Server ビューカラムと対応するテーブルカラム間のデータリネージュリンクが表示されない。
422276	Metadata Manager で JSON ファイルが抽出された後に、Cloudera Navigator リソースのロードが完了しないことがある。
421865	Teradata リソースにリンクされる PowerCenter リソースを Teradata リソースへのリンク処理中にロードしようとする、PowerCenter のロードのステータスが「キュー内のロード要求」の状態のままになる。Teradata リソースへのリンク処理はいつまでも完了しなくなります。
421763	255 文字を超える名前のオブジェクトにデータリネージュを実行し、データリネージュ図を Microsoft Excel ファイルにエクスポートすると、ファイル名が長すぎるためにエクスポートファイルを開くことができない。
421175、 414673	Metadata Manager サービスを Solaris で実行している場合、Teradata リソースをカスタムリソースにリンクする処理がいつまでも完了しない。
421159	EBF412321 を適用した後、mmcmd updateResource コマンドを実行すると、Metadata Manager サービスが予期せず終了する。
420423	Solaris にカスタムリソースをロードすると、CSV から IME へのトランスフォーマのステップでロードプロセスが応答しなくなる。
420254	Metadata Manager で、あるスキーマの Oracle テーブルと、同じリソース内の別のスキーマのビューまたはストアドプロシージャ間のデータリネージュリンクが表示されない。
418760	特殊文字が含まれているためにロードされなかったビジネス用語集のカスタム属性が mm.log ファイルにリストされない。
418383	Cognos レポートにデータリネージュ分析を実行する場合、Metadata Manager で、Cognos レポートのデータ項目と、アップストリームのレポートクエリにある対応するデータ項目間のデータリネージュリンクが表示されない。
418273	[リソースのロード] 特権を保有するユーザーがビジネス用語集リソースをロードできない。
416715、 413545	リンクする必要があるメタデータが大量にある場合、カスタムリソースのリンクに長い時間がかかることがある。
415739	カスタムリソースのロードで数十万件のエラーが発生しているとき、そのロードに失敗する。mm.log ファイルには次のエラーが表示されます。 ハイバネイトランザクションをロールバックできませんでした。ネストされた例外は org.hibernate.TransactionException です: JDBC ロールバックに失敗しました
413823	Microsoft SQL Server 統合サービスリソースを表示するとき、そのリソースに Oracle ソースを利用したデータフローが含まれており、さらにその Oracle ソースに関数が含まれている場合、Metadata Manager では関数名がソースカラムとして表示される。
413348	メタデータロードディレクトリ内のいくつかのトランスフォーメーションのエラーログレベルが Verbose に設定されている場合、Metadata Manager サービスが生成するセッションログが非常に大きなサイズになる。
410857	AIX で Metadata Manager を実行するとき、ルールセットを含むモデルまたはリソース構成をエクスポートまたはインポートできない。

CR	説明
410483	Metadata Manager リポジトリが大文字と小文字を区別する Microsoft SQL Server データベースのとき、ビジネス用語集リソースのアセットリンクが動作しない。
409831	何万ものエンティティを含む Cloudera ナビゲータリソースを読み込むと数時間かかる。
409830	ビジネス用語集リソースへの読み取り権限を持つユーザーが、オブジェクトリレーションウィザードを使用して用語集の用語とメタデータカタログオブジェクト間にリンクを作成できてしまう。
408189	SQL クエリに複数のハイフンから始まるコメントがある場合、Metadata Manager は、PowerCenter ソース修飾子トランスフォーメーションで SQL クエリオーバーライドをパースできない。
405751	Analyst ツールと同期された Business Glossary リソースのページでは、IMC_PROPERTIES テーブルからリンクが削除されない。したがって、関連するカタログオブジェクトが Analyst ツールから削除されません。Business Glossary リソースを再ロードする場合、ログファイルに「リンクがすでに存在します」のエラーが記録されます。
402424	PowerCenter リソースヘリンクを作成するとき、そのリソースに SQL クエリオーバーライドを使用するソース、ターゲット、またはルックアップトランスフォーメーションが含まれている場合、見つからないリンクのレポートに正しくないエントリが追加される。
400969	Metadata Manager で、Microsoft Analysis およびレポートサービスの名前付きクエリとその対応するデータベーステーブル間のデータリネージュリンクが表示されない。
400308	Oracle ストアドプロシージャの関連付けられたカタログオブジェクトが、関連付けられた Oracle テーブルとシノニムをリストしない。
398816	PowerCenter マップレットインスタンスの影響のサマリを表示すると、影響のサマリには、マップレットのインスタンスを含むマッピングではなく、マップレットを含むすべてのマッピングが表示される。
397474	ビュー定義に複数のハイフンから始まるコメントがある場合、Metadata Manager に Teradata ビューとその対応するテーブル間のデータリネージュリンクが表示されない。
397388	ビュー定義の SELECT 文にアスタリスク (*) が含まれている場合、Metadata Manager に Teradata ビューとその対応するテーブル間のデータリネージュリンクが表示されない。
396717	カテゴリ名が 255 文字を超える場合、Business Glossary リソースのロードに失敗する。
395761	PowerCenter セッションプロパティのテーブル所有者名がデータベース名とそれに続くピリオドに設定されている場合、Metadata Manager に PowerCenter ソース修飾子トランスフォーメーションと Netezza ソーステーブル間のデータリネージュリンクが表示されない。
390331	カスタムリソースのクラスをエクスポートし、モデルがカスタム日付形式を使用する場合、PDF エクスポートファイルの日付がメタデータソースファイルの日付と一致しない。
390252	Metadata Manager アプリケーションのセキュリティプロトコルが HTTPS で、Metadata Manager に Internet Explorer 9 または 10 でアクセスする場合、 【権限】 タブが空白になる。
390249	Metadata Manager アプリケーションのセキュリティプロトコルが HTTPS で、Metadata Manager に Internet Explorer 9 または 10 でアクセスしている場合、メタデータカタログのオブジェクトに権限を設定しようとすると次のエラーが表示される。 カタログ内で未定義を検出できません。

CR	説明
389163	Metadata Manager で、非常に大きく複雑なデータリネージュ図を生成する場合、完了しないことがある。mm.log ファイルには次のエラーが表示されます。 リネージュキャッシュ[id = 1]が動作していません。ユーザーセッションが期限切れの可能性があります。 図の UID <ID>のキャッシュをスキップしています
388844	Metadata Manager で、非常に大きく複雑なデータリネージュ図のリネージュグラフを生成する場合、30 分以上かかる場合がある。
386595	Oracle リソースロードが、アタッチされたスケジュールで指定された時刻に開始されないことがある。サービスログには次のようなエラーが表示されます。 ERROR AcquisitionServiceImpl - リソースのメタデータのロードを要求できませんでした: <name>.UserProfileNotFoundException
386552	PowerCenter リソースへのリンクを作成すると、見つからないリンクレポートの [想定されるスキーマ] カラムにスキーマ名ではなくテーブル名が表示されることがある。
385600	SQL クエリで ORDER BY 句を使用するソース修飾子トランスフォーメーションを含む PowerCenter リソースへのリンクを作成する場合、見つからないリンクレポートに間違ったエントリが追加される。

Design API の解消された制限事項（10.0）

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
421750	Design API を使用して、動的ルックアップトランスフォーメーションを含むマッピングを作成し、XML ファイルを PowerCenter にインポートすると、インポートが次のエラーで失敗する。 Missing attribute REF_FIELD for Field: ItemId [transformation< Lookup_Item_Table >]

Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項（10.0）

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
390496	Informatica Connector Toolkit の接続のテスト、メタデータのテスト、読み込みのテスト、および書き込みのテストの各ウィザードが、属性が非表示属性であることを示さない。
390363	生成されるテストデータの精度を不正に増やしても、書き込みのテストウィザードはエラーメッセージを表示しない。

PowerCenter の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
442350	統合サービスは次の状況で、XML ソースまたは XML Midstream パーサートランスフォーメーションに対する行の生成をスキップする。 <ul style="list-style-type: none">- XML 定義に基本型ビューと派生型ビューが含まれている。- XML 定義に、複合型からの複数出現要素のビューも含まれている。- 派生型に、基本型との継承リレーションがあり、さらに複数出現要素とのタイプリレーションがある。
439322	セッションのプロパティを編集しようとする、PowerCenter リポジトリサービスが予期せずにシャットダウンする。
438979	9.6.1 HotFix 3 へのアップグレード後、PowerCenter リポジトリサービスは正常にデプロイメントをロールバックするが、終了しなくなる。
438456	動的パーティション用に設定されたマッピングが、MapR ソースからの読み取りでハングアップする。
437987	961 HF1 から 961 HF3 にアップグレードした後、セッションがパラメータファイルの変数の一致に失敗する。
437560	データを Oracle ターゲットに書き込むとき、そのターゲットに精度が 4000 を超える複数の Varchar2 カラムがある場合、セッションのパフォーマンスが遅くなる。
435588	Cloudera CDH 上で、Hadoop クラスタの HDFS ターゲットに書き込むマッピングが次のエラーで失敗する。 <DATE>: ERROR : (31186 WRITER_1_*_1) : (IS <ISNAME>) : <nodename> : HDFS_66007 : Unable to establish a connection with the specified HDFS host because of the following error: [java.lang.NoClassDefFoundError: org/apache/log4j/Level]
435165	Sybase ASE 15.5 データベースへの接続にリレーショナル接続を使用し、テーブル名に長い識別子を使用している場合、テーブル名が長すぎることを示すエラーが発生する。

CR	説明
434611	次の条件がすべて当てはまる場合、セッションのパフォーマンスが遅くなる。 <ul style="list-style-type: none"> - Linux オペレーティングシステムで、ODBC 接続を使用して Microsoft SQL Server データベースに接続する。 - データベースに char データ型のカラムが含まれている。 - データベースで多数の行を更新する。
434519	オブジェクトのバージョンを消去すると、消去されたバージョンのエントリがリポジトリ内に存在しなくなる。
433486	ソースに大量のデータがある場合、PowerCenter 統合サービスが不規則にポートの値を 1 ではなく NULL として読み取る。
433403	PowerCenter Client で Metadata Exchange オプションを有効にした場合、式トランスフォーマーの入力ポートと出力ポート間のポート対ポートデータリネージュリンクが不正になる。
433388	pmcmd stoptask コマンドが、ワークフロー内のタスクの停止に失敗する。
432734	次の条件がすべて当てはまる場合、データの破損が発生する。 <ul style="list-style-type: none"> - Oracle ソースから BLOB データを読み取り、Oracle ターゲットに書き込む。 - ターゲットデータベースの CHAR カラムの前に BLOB カラムが配置されている。
429124	pmrep purgeVersion のオプション -c は、-p オプションがあってもなくても使用できる。 -c オプションを -p オプションなしに使用した場合、このコマンドはデプロイメントグループに含まれているバージョンを消去しません。-c オプションを -p とともに使用した場合、結果で消去されるバージョンが表示され、さらにデプロイメントグループに含まれているバージョンが一覧表示されます。
428918	デプロイメントグループに含まれるオブジェクトを消去すると、消去したオブジェクトを含んでいたグループをデプロイできない。
427255	StoreHAPersistenceInDB プロパティを [はい] に設定し、PowerCenter 統合サービスをグリッド上で実行すると、PowerCenter 統合サービスが予期せずにシャットダウンする。
426627	pmrep DeployDeploymentGroup コマンドを使用すると、制御ファイルに指定されている PowerCenter 統合サービスがターゲットリポジトリに割り当てられない。
425542	簡体字中国語ロケールで、Designer と Workflow Manager のようこそページのリンクが機能しない。
416605	次の条件が当てはまる場合に、ID 照合マッピングを実行するセッションが失敗することがある。 <ul style="list-style-type: none"> - マッピングが日本の人口ファイルを読み込む。 - 複数のセッションが同時に ID 照合マッピングを実行する。
408311	Design API を使用してリポジトリメタデータをエクスポートすると、Design API がワークフローオブジェクトの作成に失敗する。
404867	複数の pmrep コマンドを含むスクリプトを実行するときに、pmrep コマンドの 1 つの真ん中にハッシュ (#) 記号が含まれていると、PowerCenter リポジトリサービスでは、どのようなコマンドでも「-f」オプションを利用して pmrep コマンドを実行できない。
398174	DBPassword オプションに特殊記号を指定した場合、infacmd UpdateRepositoryService コマンドが失敗する。

CR	説明
396129	REP_TARG_MAPPING、REP_TBL_MAPPING、および REP_FLD_MAPPING リポジトリは、廃止された OPB リポジトリテーブルを参照しているため、それらの Metadata Exchange ビューは空になる。
392626	REP_FLD_DATATYPE 内にデータ型エントリがない場合、テーブルを結合するビューは、そのデータ型を使用するフィールドのエントリを返すのに失敗する。
388596	ワークフローにワークレットが含まれる場合、REP_SESS_CONFIG_PARM ビューに複数のセッション設定パラメータが表示される。
386018	PowerCenter 9.5.1 HotFix 2 以降で REP_SESS_CONFIG_PARM のビューを使用する場合、パフォーマンスが遅くなることがある。
360921	ワークフローを別のドメインの別の複数のリポジトリにわたってコピーする場合、コピー先リポジトリの接続の所有者が正しく設定されない。
346108	エクスポートされたドメインからワークフローとノードリソースをインポートする場合、インポートプロセスがインポートされたドメインのノードリソースの検証に失敗する。
335874	REP_SESS_LOG ビューと OPB_SESS_TASK_LOG リポジトリテーブルに、ワークフロー実行インスタンスの最新のエントリが反映されない。

第 5 章

Informatica の既知の制限事項

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica Analyst の既知の制限事項, 32 ページ](#)
- [Big Data の既知の制限事項, 36 ページ](#)
- [Informatica Data Transformation の既知の制限事項, 38 ページ](#)
- [Informatica Developer の既知の制限事項, 38 ページ](#)
- [Informatica ドメインの既知の制限事項, 46 ページ](#)
- [Metadata Manager の既知の制限事項, 49 ページ](#)
- [PowerCenter 10.0 の既知の制限事項, 51 ページ](#)
- [Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項 \(10.0\) , 52 ページ](#)

Informatica Analyst の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
443365	ビジネス用語の【 関連するアセット 】セクションにあるカラムプロファイルへのリンクをクリックすると、Analyst ツールに【 検出 】ワークスペースが表示されるが、カラムプロファイルが表示されない。 回避策: プロファイルの詳細ビューでリンクを指定するのではなく、【 検出 】ワークスペースで、プロファイルのサマリビューのカラム名を右クリックしてプロファイルをビジネス用語にリンクします。
442730	エンタープライズ検出プロファイルを開くと、プロファイルのヘッダが「<EDD_name>:<taskname>」と表示されず「<taskname>:<taskname>」と表示される。
442702	PowerCenter リポジトリサービスを Latin1 コードページのスーパーセットである MS Windows Latin 1 (ANSI) によって作成し、マッピング仕様を PowerCenter リポジトリにエクスポートする場合、リポジトリの接続に失敗する。 回避策: マッピング仕様を PowerCenter リポジトリにエクスポートするには、PowerCenter リポジトリサービスを UTF-8 コードページで作成します。
442595	カラム名に@、%、#、または+が含まれている場合、カラムの詳細ビューでプロファイル結果を参照できず、さらにカラムのプロファイル実行の比較が失敗する。

CR	説明
442161	【設定】 タブで、Business Glossary Desktop アプリケーションにサポートされていないビジネス用語のプロパティが表示される。
442150	承認ワークフローの間、Analyst ツールで承認者に投票タスクをユーザーグループに委任できないことが警告されない。
442146	次の条件が当てはまる場合、Analyst ツールではルール仕様の入力の名前が変更され、ルール仕様が無効化される。 - ルール仕様が、バージョン 10.0 にアップグレードするモデルリポジトリに存在する。 - ルール仕様に 1 つ以上の同じ名前が入力が含まれている。 回避策: その入力をルールセットから削除します。入力を再度作成し、ルールセットに追加します。
442067	バージョン管理システムを有効にし、次のオプションを設定したデータドメイン検出によってカラムプロファイルを実行すると、NULL ポインタ例外を受信する。 - データドメインを選択。 - サンプリングオプションとして 【ランダム】 を選択。 - ドリルダウンオプションとして 【ライブ】 を選択。
442065	Informatica ドメインで Kerberos 認証を使用している場合、プロファイルのチェックインおよびチェックアウトに失敗する。
442055	バージョン管理システムを有効にしているとき、次の状況においてエンタープライズ検出プロファイルの 【実行】 オプションが表示されない。 1. エンタープライズ検出プロファイルを作成する。 2. プロファイルをチェックインする。 3. 【編集】 をクリックして、プロファイルを編集する。 4. プロファイルをチェックアウトするようメッセージが表示され、プロファイルをチェックアウトする。 回避策: それぞれのプロファイルタスクを開いて実行します。
441916	Developer tool で参照テーブルにタグを割り当てられない。 回避策: Analyst ツールで参照テーブルにタグを割り当てます。
441751	VSAM、Adabas、または IMS 非リレーショナル z/OS データでスコアカードを作成できない。
441670	次の状況において、ドリルダウンの結果が表示されない。 1. カラムプロファイルを作成し実行する。 2. 整数データ型のカラムの詳細ビューで、いくつかの値を選択してデータドメインを作成する。 3. カラムプロファイルとデータドメイン検出を追加するようにプロファイルを編集し、新しいデータドメインと最小一致率 1%を選択する。 4. プロファイルを実行する。 5. 整数データ型のカラムの詳細ビューで、推測されたデータドメインをクリックし、適合する行にドリルダウンする。 6. 【データプレビュー】 パネルを確認する。
441619	日付データ型のカスタムビジネス用語プロパティをインポートするとき、そのプロパティにデータが含まれていない場合には、Business Glossary Desktop にプロパティの日付が「1969 年 12 月 31 日」と表示される。
441191	カラムのデータ型が TIMESTAMP WITH TIME ZONE の場合、そのカラムに対して組み込みルールと値の頻度のルールが機能しない。
441171	Analyst ツールでは、前のインポートタスクの処理中にユーザーがブラウザを閉じると、以降の用語集のインポートタスクが許可されない。 回避策: アナリストサービスを再起動して新しいインポートタスクを開始します。

CR	説明
440673	特定の実行のバージョン履歴を開くと、一貫性の無いバージョンのメタデータが表示される。あるバージョンのスコアカードを開いてそのスコアカードを前のバージョンにリストアするか、スコアカードを編集するとエラーが発生します。
439899	ルール仕様をテストしているとき、その仕様に他のルール仕様から生成したマップレットが含まれている場合、Analyst ツールで正しくない結果が返される。この問題は、生成したマップレットがモデルリポジトリの他のマップレットを読み取るときに発生します。 回避策: Analyst ツールからログアウトして、再度ログインします。Analyst ツールに表示されるエラーメッセージは無視してください。
439780	JSON または XML プロファイルに対して作成したスコアカードのスコアカード結果をエクスポートするとき、無効な値がファイルにエクスポートされない。
439705	JSON または XML プロファイル結果を既存のリレーショナルスコアカードに追加しようとすると、NULL ポインタ例外を受信する。
439453	ルール仕様をテストしているとき、その仕様に他のルール仕様から生成したマップレットが含まれている場合、Analyst ツールで正しくない結果が返される。この問題は、マップレットを生成したルール仕様に、モデルリポジトリのマップレットと同じ名前のルールセットがある場合に発生します。 回避策: Analyst ツールからログアウトして、再度ログインします。Analyst ツールに表示されるエラーメッセージは無視してください。
439258	Analyst ツールでは、ルール仕様を開くとき、その仕様に他のルール仕様から生成したマップレットが含まれている場合、エラーメッセージが表示される場合がある。この問題は、マップレットをルール仕様に追加した後で、同じ Analyst ツールセッションで別のバージョンのマップレットを生成した場合に発生します。 回避策: Analyst ツールからログアウトして、再度ログインします。Analyst ツールに表示されるエラーメッセージは無視してください。
439254	前のバージョンからアップグレードしたモデルリポジトリサービスに以前の Business Glossary コンテンツが含まれていない場合、用語集をバージョン 10.0 で作成できない。 回避策: モデルリポジトリサービスをバージョン 10.0 にアップグレードした後で、upgradeRepository コマンドラインプログラムを実行します。
439182	リンクされたルール文のチェーンをルール仕様内の他のルールセットにコピーすると、そのルール仕様からマップレットを生成できない。この問題は、マップレットをチェーン内の 2 番目以降のルール文に組み込む場合に発生します。この問題は次の状況で発生する場合があります。 - ルール文のチェーンを同じルール仕様内または別のルール仕様内のルールセットにコピーする。 - ルール文のチェーンを含んだルールセットを同じルール仕様内または別のルール仕様内の別の場所にコピーする。
439101	ソーシャルメディアをベースにしたソースのデータレビューが失敗し、Analyst ツールで機能しない。
438311	Analyst ツールが添付ファイルを保存するリモートディレクトリへのアクセス権を持つユーザーならば、だれでも用語集アセットにアタッチされたファイルを削除できてしまう。
438308	Analyst ツールが添付ファイルを保存するリモートディレクトリへのアクセス権を持つユーザーならば、だれでもコンテンツ管理者が用語集アセットにアタッチしたファイルを参照できてしまう。

CR	説明
437822	<p>Web サイトからテキストをコピーして、リッチテキストをサポートする用語集アセットのプロパティに貼り付けると、Analyst ツールで次のエラーが表示される場合がある。</p> <p>Uncaught TypeError: Cannot read property 'toLowerCase' of undefined</p>
437298	<p>データ統合サービスグリッドに Windows ノードが含まれ、データ統合サービスが別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されている場合、データ統合サービスからフラットファイルキャッシュディレクトリにアクセスできないときに、フラットファイルの追加ウィザードが反応しなくなる。フラットファイルの追加ウィザードでは、フラットファイルキャッシュディレクトリにアクセスできないことを示すエラーが表示されます。</p> <p>回避策: アナリストサービスとデータ統合サービスが別のノードで実行されている場合は、フラットファイルディレクトリが共有ディレクトリを使用するように設定します。</p>
437273	<p>データカラムの特定の整数をすべて別の整数に置換する例外レコードタスクでは、検索と置換オプションを使用できない。</p>
436614	<p>Informatica ドメインで Kerberos ネットワーク認証を使用して、ネットワークのユーザーやサービスを認証するように設定している場合、Business Glossary で高度な承認ワークフローを使用できない。</p>
436505	<p>JSON または XML プロファイルで推測されたデータドメインに対して 【アクション】 > 【検証】 をクリックした場合、プロファイルの実行が正常でも、【データドメイン】 パネルに検証のマークが表示されない。</p>
436393	<p>Analyst ツールのアップグレードを完了した後、Analyst ツールに次のエラーが表示される。</p> <p>The status of the upgrade cannot be determined. Use the command line program to complete the upgrade process</p>
431899	<p>Developer tool で、JD Edward、LDAP、Microsoft Dynamics CRM、SAP（新しいアプリケーションベースの SDK）、Salesforce、ODATA、Teradata（ネイティブ）、または Netezza（ネイティブ）データソースのプロファイルを作成する場合、Analyst ツールでプロファイル結果を開いて表示できるが、そのプロファイルを編集することができない。</p>
431875	<p>サマリビューでは、プロファイル結果をデータドメイングループ別やデータドメイン別にグループ化できない。</p>
423967	<p>スコアカードを Excel ファイルにエクスポートすると、傾向グラフの日付形式が誤って表示される。</p>
423129	<p>日本、韓国、または中国のロケールでルール仕様のプロパティを表示すると、次のオプションが正しく整列されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文字列の最大長さ - 番号の最大長 - 小数点以下の桁数 <p>この問題は、Google Chrome ブラウザで発生します。</p> <p>回避策: 箇条書きのリストに示されている順序でオプションを表示して更新します。</p>
421984	<p>管理者ではないユーザー名で Analyst ツールにログインしている場合、【タスク管理】 タブで管理するヒューマンタスクのインスタンスを表示できない。</p>
421325	<p>参照テーブルの値を検索し、無効な値で置換しようとする、Analyst ツールが正しくないエラーメッセージを返す。そのエラーメッセージは、指定した検索値が参照テーブルに含まれていないと通知します。この問題は、指定した置換値に使用されている精度が、参照データカラムに対して高すぎる場合に発生します。</p>

CR	説明
418855	Analyst ツールで、Kerberos 認証を使用するドメインでマッピング仕様を Excel にエクスポートできない。
418133	データソース内のカラムの 1 つが UTF-8 形式の場合、カラムプロファイルを作成できない。
413589	Developer tool の投票タスクは内部使用のみを目的としているが、Developer tool でユーザーが投票タスクプロパティを設定しようとしても警告が表示されない。
396636	他のユーザーが変更したアセットを削除しようとしたとき、Analyst ツールでは、そのアセットが最新版ではないという警告が表示されない。
378801	同じルールセットでは、加算操作または減算操作から出力を生成するルール文と、乗算操作または除算操作から出力を生成するルール文を設定できない。Analyst ツールは、加算操作または減算操作からの出力を乗算操作または除算操作からの出力と異なるデータ型として扱う。 回避策: ルール文を異なるルールセットで設定します。
290642	Oracle データのプロファイルから参照テーブルを作成する際、次のような場合に Analyst ツールが警告メッセージを表示しない。 1. プロファイルデータの精度が参照テーブルカラムの精度を超える。 2. この操作により、整数データ型で定義したカラムに 10 進型データが追加される。

Big Data の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
443150	Blaze エンジンのコンポーネント間で同期エラーが発生するため、Developer tool で Blaze エンジンのマッピングがハングし、Monitoring ツールにマッピングのステータスが表示されない。 回避策: Blaze エンジンのマッピングを再度実行します。
443164	個別のリモートプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスが設定されている場合、次のいずれかのソースから読み取るマッピングの実行がネイティブ環境で失敗する。 - Hadoop 分散ファイルシステム (HDFS) のフラットファイルまたは複合ファイル - HIVE テーブル - HBase テーブル 回避策: データ統合サービスの計算ビューで、計算ロールのある各ノードの INFA_HADOOP_DIST_DIR 環境変数を設定します。環境変数に、データ統合サービスの [データ統合サービスの Hadoop ディストリビューションディレクトリ] 実行オプションに設定されている値を設定します。
442422	DEF フレームワークで、各 Blaze グリッドセグメントに過剰なファイル記述子が作成され、マッピングが終了するまでクリアされない。
441992	マッピングの Hive ターゲットに 4000 個を超えるカラムが含まれていると、マッピングの完了までに時間がかかる。
441772	改行文字のある Oracle ソースが含まれる Hadoop 環境のマッピングでデータの破損が発生する。

CR	説明
441541	アプリケーションタイムラインサーバーで Kerberos 認証が使用されている場合、Blaze エンジンを使用するジョブを監視できない。 回避策: アプリケーションタイムラインサーバーで Kerberos 認証を使用しないようにします。
440815	IBM BigInsights および Pivotal クラスタの Hive バイナリデータ型が含まれていると、マッピングがネイティブ環境で失敗する。
440480	stopBlazeService コマンドを実行すると、一部のコンポーネントログが HDFS の集計ログファイルに書き込まれないことがある。 回避策: Blaze エンジンログに設定されたディレクトリで Blaze エンジンログを確認します。
440423	ODBC 接続を使用して時間データを Netezza データベースに書き込むと、マッピングに失敗する。この問題は、Cloudera 5u4 でマッピングを実行する場合に発生します。
440388	Netezza カラムに同じ精度とスケールがあり、データ値が 0 になっている場合、データ統合サービスがターゲットに書き込むときにデータが破損する。この問題は、Netezza 接続を使用して Cloudera 5u4 でマッピングを実行する場合に発生します。
440121	アグリゲータトランスフォーメーションで 10 進型の MAX および MIN 関数を追加すると、ネイティブ環境で実行されるマッピングと Hadoop 環境で実行されるマッピングで出力データが異なる。
438578	プライマリキーを指定するか、Hive テーブルのプライマリキーセットのデータをプレビューすると、アップデートストラテジトランスフォーメーションを含むマッピングを検証できない。
437592	トランスフォーメーションまたはターゲットに接続されていない Timestamp with Time Zone データ型のカラムが含まれていると、マッピングの検証に失敗する。
437204	Hive ソースまたはターゲットが含まれるマッピングが Hadoop 環境で実行されると、マッピングのサマリ統計が Monitoring ツールに表示されない。
437196	複合ファイルオブジェクトのリソースファイルのパスが、ルートディレクトリで始まり文字列で終わるディレクトリの再帰パスとして表示される。
424789	ABS 関数と IIF 関数を併用する Hive ソースおよびターゲットを含むマッピングが Hadoop 環境で失敗する。
422627	Hive ソースと、デフォルトのテーブル名がカラム名のプレフィックスとして使用されているフィルタ条件が含まれていると、Hadoop 環境のマッピングに失敗する。 回避策: フィルタ条件を編集して、カラム名のプレフィックスとして使用されているテーブル名を削除し、マッピングを再度実行します。
421834	Hadoop 接続の名前に 128 文字が使用されているために、Hadoop 環境のマッピングに失敗します。
409922	Hive 環境で複雑なデータ型を持つマッピングを検証するとき、マッピング検証エラーが発生する。 回避策: マッピングをネイティブ環境で実行します。

Informatica Data Transformation の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
CM-764 2	データプロセッサを開く前に、Developer で【ファイル】->【インポート】を選択して Data Transformation をインポートすると、インポートウィザードがエラーで失敗する。 回避策: プロジェクトの右クリックメニューから【インポート】を選択します。

Informatica Developer の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
443876	Web サービスコンシューマトランスフォーメーションと REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションが Timestamp with Time Zone データ型をサポートしない。
443810	同じワークフローの同時インスタンスを複数実行すると、マッピングタスクが永続マッピング出力の更新に失敗する可能性がある。 回避策: ワークフローを開始するたびに 10 秒待ってから次のワークフローを開始します。
443730	AIX オペレーティングシステムで、SSL 対応の Oracle 接続と Oracle 12C クライアントを使用して Oracle データベースに接続すると、マッピングが失敗する。
443366	ワークフロー変数をヒューマンタスク出力に割り当てた場合、ヒューマンタスクが実行されるときにデータ統合サービスがヒューマンタスク出力値を更新しない。
443273	アプリケーションまたはワークフローの一部となっているパラメータセットを削除しようとすると、Developer tool で NULL ポインタ例外が生成され、パラメータセットが削除されない。
443208	infacmd dis updateParameterSetEntries コマンドまたは infacmd dis addParameterSetEntries コマンドのいずれかを Linux マシンで C シェルから実行した場合、これらのコマンドに一重引用符または二重引用符を埋め込むことができない。 回避策: これらのコマンドを Bash シェルから実行した場合は、一重引用符または二重引用符を埋め込むことができます。
442902	次の状況に当てはまる場合、マッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none">- マッピングがフラットファイルソース用に設計されていて、ソースをリレーショナルソースとしてパラメータ化する。- マッピングがパラメータセットと一緒にデプロイされている。- マッピングにリソースパラメータと、ポートリストパラメータまたはソートリストパラメータのいずれかがある。 回避策: マッピングでパラメータセットにポートリストパラメータまたはソートリストパラメータがある場合、読み取りトランスフォーメーションでデータオブジェクトタイプを変更しないでください。

CR	説明
442893	<p>マッピングにルックアップトランスフォーメーションが含まれている場合、Developer tool でグループ名ルックアップカラムの下でルックアップポートが折りたたまれる。ルックアップポートが表示されないため、エディタでルックアップポートとダウンストリームトランスフォーメーション間のリンクが表示されません。</p> <p>回避策: Developer tool で、【レイアウト】 > 【すべて整列-アイコン化】 をクリックします。次に、【レイアウト】 > 【すべてリストア】 をクリックします。</p>
442766	<p>次の条件に当てはまる場合、シングルソースの ID 照合分析を実行するマッピングがエラーで終了する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一時インデックスデータを生成するように一致トランスフォーメーションを設定し、データベースにインデックスデータを書き込むようにトランスフォーメーションを更新する。 - 照合ストラテジで ID インデックスキーフィールドを選択していない。
442680	<p>複数の出現カラムまたは PowerCenter からインポートしたレコードを持つノーマライザトランスフォーメーションでデータのプレビューが失敗する。</p>
442599	<p>Developer tool でドメインを 2 回設定するとマッピングのインポートが失敗する。</p>
442496	<p>【データオブジェクト】 タブでリソースパラメータのデフォルトパラメータ値を変更すると、【データオブジェクト】 タブで正しいデフォルト値が表示されない。【データオブジェクト】 タブにはリソースパラメータの元のデフォルトパラメータ値が表示されます。</p> <p>回避策: 【データオブジェクト】 タブで異なるリソースパラメータを探して選択します。次に、元のリソースパラメータを再び探して選択します。正しいデフォルトパラメータ値が表示されます。</p>
442440	<p>カスタマイズデータオブジェクトルックアップソースがあるルックアップトランスフォーメーションでデータのプレビューを実行したときに、テーブルがカスタマイズデータオブジェクトから削除されているか置換されていると、予期しないエラーが発生する場合があります。</p> <p>回避策: 修正されたカスタマイズデータオブジェクトをルックアップソースとして使用してルックアップトランスフォーメーションを作成します。</p>
442368	<p>無効なマッピングの履歴バージョンを表示してから 【最適化されたマッピングを表示】 を選択すると、Developer tool で NULL ポインタ例外が返される。エラーを閉じて 【検証ログ】 ビューを開き、マッピングに関する問題を表示します。</p>
442175	<p>Timestamp with Time Zone データ型の未接続出力ポートを持つ Java トランスフォーメーションを含むマッピングをプレビューまたは実行できない。</p>
442174	<p>制御ファイルパスのパラメータとフラットファイルデータオブジェクトに含まれる名前を使用し、マッピングに含まれるフラットファイルソースのリソースパラメータを使用すると、マッピングが失敗する。</p>
442136	<p>【データオブジェクト】 タブで 【パラメータ】 オプションと 【値】 オプションを切り替えると、新しいデータオブジェクト値を選択した後に Developer tool でトランスフォーメーションの 【全般】 タブが開く。Developer tool では引き続き 【データオブジェクト】 タブが表示される必要があります。</p> <p>回避策: 【データオブジェクト】 タブをクリックして変更内容を表示します。</p>
442040	<p>ODBC プロバイダをソースに接続するための MongoDB および Cassandra として選択すると、データ統合サービスがトランスフォーメーションロジックをソースにプッシュできず、NULL ポインタ例外が発生する。</p> <p>回避策: ODBC 接続オブジェクトの ODBC プロバイダを 【その他】 として指定し、マッピングを実行します。</p>

CR	説明
441920	最適化されたマッピングに未接続ポートが含まれ、マッピングに出力例外が含まれているとデータのプレビューが失敗する。
441756	<p>パラメータ化されたソースとターゲットが含まれるワークフローをデプロイすると、リソースパラメータが関連付けられたパラメータセットにあり、Developer tool からワークフローを実行した場合、ワークフローでターゲットの作成に失敗する。</p> <p>回避策: 最初にワークフローを実行するときに、infacmd wfs startWorkflow コマンドを使用してワークフローを実行します。次にワークフローを実行するときには、Developer tool から実行できます。</p>
441631	<p>マッピング出力例外で精度 38 桁の Decimal ポートを使用すると、Decimal オーバーフローエラーが発生する。マッピングは失敗しません。</p> <p>回避策: マッピング出力データ型を Double に設定します。</p>
441218	長時間 infacmd コマンドラインから複数の同時マッピングを実行すると、エラーでマッピング実行が失敗する場合があります。
441084	<p>初期同期中にモデルリポジトリと Subversion バージョン管理システム間の接続が失われると、同期操作を繰り返そうとしたときに次のようなエラーで失敗する場合があります。</p> <p>The Repository Service operation failed. ... Encountered the following error: 'svn: E175005: File <file_name> already exists'.</p> <p>これは、モデルリポジトリサービスですでに同期されたファイルが検出された場合に起こります。</p> <p>この問題に対処するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデルリポジトリサービスを停止します。 2. Subversion システムで、部分的に同期されたモデルリポジトリのコンテンツを削除します。 3. モデルリポジトリサービスを再起動します。 4. モデルリポジトリを Subversion バージョン管理システムと同期します。
440915	複数のポートグループを持つトランスフォーメーションからマッピング内の別のオブジェクトにポートをドラッグすると、Developer tool でポートリンクが表示されない。この問題は、アドレスバリデータトランスフォーメーションや一致トランスフォーメーションなどのデータ品質トランスフォーメーションで起こります。
440849	データ統合サービスがアグリゲータトランスフォーメーションを持つマッピングにコストベースの最適化方式を適用すると、ジョイナトランスフォーメーション後にジョイナトランスフォーメーションとアグリゲータトランスフォーメーションが表示される前にデータがソートされている場合であっても、余分なソータートランスフォーメーションが追加される場合があります。
440693	ルーターでの中間ストリームのプロファイルと一致率の高い複数グループのトランスフォーメーションを実行すると、最初のグループの結果がすべてのグループの結果として表示される。
440656	<p>パラメータ化されたルックアップソースを作成し、ルックアップ条件で入力カラムデータ型を変更すると、Developer tool で次の予期しないエラーメッセージが返される。</p> <p>セル値を検証できません。</p> <p>回避策: このメッセージを非表示にするには、ESC を押して Developer tool のユーザーインターフェースのフォーカスを変更します。ルックアップ条件について有効なデータ型で別のポートを作成します。</p>
440630	フラットファイルデータソースから論理データオブジェクトマッピングを作成すると、再利用不可能なシーケンスジェネレータトランスフォーメーションを含めたときにマッピングが失敗する。再利用可能なシーケンスジェネレータトランスフォーメーションは使用できます。

CR	説明
440618	再利用可能なトランスフォーメーションでポートセレクトを作成し、名前によってポートを選択することを選択すると、Developer tool で使用可能なポートが一覧表示されない。
440559	<p>【実行設定】 ダイアログボックスでデータ形式を指定していないか、ターゲットファイルで Timestamp with Time Zone 形式を指定していない場合、データ統合サービスが大きなデータセットの暗黙の変換中にランダムで行を拒否する。</p> <p>回避策: データに 【実行設定】 で指定された日付形式とターゲットファイルに Timestamp with Time Zone 形式が含まれていることを確認します。100,000 行未満のデータセットは使用できます。</p>
440537	JSON または XML プロファイルで新しいスコアカードを作成して実行したときにスコアカードの結果が表示されず、Analyst ツールでスコアカードを実行したときに NULL ポインタ例外を受信する。
440398	入力行数が 100,000 より多く、マッピングに Timestamp with Time Zone ポートを持つ Java トランスフォーメーションが含まれる場合、マッピングが予期せずに失敗する場合があります。
440275	コストベースの最適化方式を使用するようにマッピングが設定されている場合でも、未指定の行制限または LIMIT 句が SQL トランスフォーメーションに含まれるマッピングにデータ統合サービスがコストベースの最適化方式を適用しない。
440128	DATE_COMPARE()、GET_DATE_PART()、または LENGTH()関数を使用して、Teradata データベースの完全なプッシュダウンを有効にすると、データ統合サービスがトランスフォーメーションロジックを正常にプッシュダウンしない。この問題は、ODBC 接続を使用する場合に発生します。
439979	ODBC 接続を使用していて Netezza ターゲットにデータを書き込むと、データ統合サービスが Boolean および Timestamp データ型のデータを拒否する。
439561	<p>動的ソースでリソースをパラメータ化し、実行時にデータオブジェクトカラムを更新することを選択すると、ソースで設定したシステムパラメータをデータ統合サービスが解決できない。データ統合サービスは、フラットファイル制御ファイルのパラメータの解決にも失敗する場合があります。</p> <p>回避策: ソースディレクトリまたは制御ファイルディレクトリにシステムパラメータではなく定数値を使用します。</p>
439426	<p>ポートをリンクするためのキーボードのショートカット Ctrl+L を使用できない。</p> <p>回避策: マウスを使用して入力オブジェクトまたはトランスフォーメーションから出力オブジェクトまたはトランスフォーメーションまでポートをドラッグします。</p>
439227	マッピングパラメータのパラメータタイプがポート、ポートリスト、ソートリスト、式、リソース、または入力リンクセットのいずれかの場合、ワークフローパラメータをマッピングパラメータにバインドできない。
439220	書き込みトランスフォーメーションのターゲットに親子のリレーションを持つ 2 つのデータベーステーブルが含まれる場合、このオプションを 【実行時にテーブルを作成または置換する】 に対して有効にするとマッピングが失敗する。データ統合サービスは指定された順序でテーブルをドロップして再作成するため、親テーブルと子テーブル間のプライマリキーと外部キーの正しいリレーションを再作成できません。

CR	説明
439161	<p>複数のオブジェクトのチェックイン中にモデルリポジトリと Perforce バージョン管理システム間の接続が失われると、一部のオブジェクトがチェックインされない。接続が再確立された後でも、接続が失われるときに [Perforce] ワークスペースが破損するため、これらのオブジェクトはチェックインできません。</p> <p>この問題に対処するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデルリポジトリサービスを停止します。 2. Perforce クライアントから、バージョン管理システムユーザーに対応する [Perforce] ワークスペースを削除します。 <p>ヒント: これは、モデルリポジトリのバージョン管理プロパティに表示されるユーザー ID です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. モデルリポジトリサービスを再起動します。 <p>モデルリポジトリサービスを再起動すると、サービスは自動的に [Perforce] ワークスペースを再作成します。チェックアウトされたファイルをチェックインし、他のバージョン管理システム関連の操作を実行できます。</p>
439136	<p>ノーマライザトランスフォーメーションを含むパーティション化についてマッピングを有効にすると、データ統合サービスは常に 1 つのスレッドを使用してトランスフォーメーションを実行する。データ統合サービスは、複数のスレッドを使用して残りのマッピングパイプラインステージを実行できます。</p>
439057	<p>式エディタのテストパネルで Timestamp with Time Zone 入力ポートについてデフォルト値が常に表示されるとは限らない。</p> <p>回避策: ソースデータに次の形式の Timestamp with Time Zone が含まれていることを確認します: MM/DD/YYYY HH24:MI:SS TZR</p>
439054	<p>AIX 6.1 で、マッピングに Timestamp with Time Zone データ型が含まれている場合に予期しない条件でマッピングが失敗する。</p>
438965	<p>MapR 4.0.2 Yarn または MapR 4.0.2 classic Hadoop ディストリビューションファイルで複数のデータドメインが含まれるデータドメイン検出プロファイルを実行すると、プロファイル実行が失敗する。</p>
438661	<p>マッピングが完全最適化レベルで設定されている場合でも、Timestamp with Time Zone データ型を含むマッピングにデータ統合サービスがコストベースの最適化方式を適用しない。</p>
438409	<p>バージョン管理操作中にバージョン管理システムがモデルリポジトリオブジェクトを保存するディスクの空き容量が不足した場合、操作が失敗し、接続が失われたというメッセージが表示される場合がある。管理者が Administrator ツールで同じ操作を実行しようとした場合、リポジトリログにディスク容量の問題に関する正しいエラーメッセージが記録されます。</p>
438061	<p>マッピングで Timestamp with Time Zone データ型を使用すると、精度が秒を超えた場合にデータが切り詰められる。この問題は、論理データオブジェクトマッピングでデータオブジェクトのキャッシュを有効にして、データオブジェクトのキャッシュデータベースが IBM DB2 または Microsoft SQL Server 上にある場合に起こります。</p>
438040	<p>式エディタのテストパネルの最下段に表示される式の結果で Timestamp with Time Zone データについてナノ秒が無視される。</p>
437435	<p>Developer tool でデータをプレビューした後にトランスフォーメーションのプロパティビューでタブが表示されない。</p> <p>回避策: マッピングエディタの何もない領域をクリックし、プロパティビューでタブを表示するトランスフォーメーションを選択します。</p>

CR	説明
437066	<p>TO_BIGINT 関数を含むマッピングを設定し、プッシュダウンの最適化のためにこの関数が 10 進値を bigint 値に変換すると、マッピングが不正なデータをターゲットに書き込む。</p> <p>回避策: マッピングについてプッシュダウンの最適化を設定しないで、マッピングを再び実行します。</p>
436837	<p>パラメータ化されたソースまたはターゲットを持つマッピングをエクスポートして別のプロジェクトにインポートすると、マッピングが失敗する。この問題が起こるのは、リソースパラメータのデフォルト値がパス内の元のプロジェクト名を参照するためです。</p> <p>回避策: マッピングをインポートした後でリソースパラメータのデフォルト値を更新します。</p>
435996	<p>Data Transformation が JSON または XML 入力ファイルを処理できないと、プロファイル実行が失敗する。</p>
434792	<p>キーフィールドポートを照合ストラテジに含んでいないと、一致トランスフォーメーションでキーフィールドポートの ID 分析が実行され、照合ストラテジポートが無視される。トランスフォーメーションでキーフィールドデータの照合分析が正しく実行されず、正確なクラスタが作成されません。</p>
434785	<p>異なる名前を持つカラムでデュアルソースでの分析を実行する ID 照合マッピングを実行すると、一致トランスフォーメーションが失敗し、エラーメッセージが生成される。例えば、1 つのデータソースの ZIP コードカラムを別のデータソースの郵便番号カラムと比較すると一致トランスフォーメーションは失敗します。</p> <p>回避策:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アップストリーム式トランスフォーメーションを各データソースのマッピングに追加します。 2. 一致トランスフォーメーションが分析する必要のあるカラムの各式トランスフォーメーションで出力を作成します。各式トランスフォーメーション出力で同じ名前を使用します。 3. 式トランスフォーメーション出力ポートを一致トランスフォーメーションに接続し、ID 分析のためのポートを選択します。
434584	<p>ストアドプロシージャトランスフォーメーションを含むマッピングを PowerCenter から Developer tool にインポートできない。</p>
434561	<p>ルックアップソースをパラメータ化して入力ポートの名前がルックアップソースのポートと競合する場合、Developer tool がいずれかのポートの名前を変更する。Developer tool がルックアップポートの名前を変更する場合、Developer tool でポート名を変更する警告が表示されます。Developer tool で名前の競合を解決しないと、トランスフォーメーションは有効ですが、動的マッピングを実行したときに予期しない結果を招く場合があります。</p> <p>回避策: ルックアップソースでポートの名前を変更し、名前の競合を回避します。</p>
434211	<p>次の条件が当てはまる場合、カラムプロファイル実行が失敗する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Oracle と DB2 で同じメタデータを持つ 2 つのデータソースを作成する。 2. データソースを Oracle からフラットファイルデータオブジェクトにインポートする。 3. フラットファイルデータオブジェクトでカラムプロファイルを作成して実行する。 4. オブジェクトエクスプローラで、データオブジェクトを右クリックし、接続の切り替えを実行して、DB2 接続を選択する。 5. プロファイルを保存して実行する。
434048	<p>マッピングにパラメータタイプをサポートするトランスフォーメーションが含まれていない場合、マッピングの 【パラメータ】 タブで一部のタイプのパラメータを作成できない。Developer tool には、マッピング内のトランスフォーメーションで使用可能なパラメータタイプのみが含まれるパラメータタイプのリストが表示されます。例えば、マッピングにソートトランスフォーメーションが含まれていない限り、【パラメータ】 タブでソートリストパラメータを作成できません。</p> <p>回避策: マッピングパラメータを作成する前にトランスフォーメーションをマッピングに追加します。</p>

CR	説明
433997	Developer tool の【進行状況】ビューにタスクがランダムな順序で表示される。
432822	次の Timestamp with Time Zone 関数の式形式の検証が失敗する: CREATE_TIMESTAMP_TZ、GET_TIMEZONE、GET_TIMESTAMP、および TO_TIMESTAMP_TZ。
431728	キーボードを使用して HTTP Web 接続を追加できない。 回避策: マウスを使用して HTTP Web 接続を追加します。
431726	キーボードを使用して Web サービス接続を追加できない。 回避策: マウスを使用して Web サービス接続を追加します。
431685	式でフィールド名に Unicode 句読文字が含まれているため、検証済みマッピングが式解析エラーで実行に失敗する。
431534	完全最適化レベルでロード順序の制約を使用するようにマッピングを設定すると、データ統合サービスがコストベースの最適化方式を適用しない。
430163	REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションのポートビューにフィールドをコピーできない。 回避策: ポートを REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションに手動で追加します。
429231	先頭にドル記号 (\$) が付いているワークフローパラメータ名を作成した場合に、検証エラーが発生しない。
428506	特定のデータ型の引数が必要な関数を持つ動的な式について式検証が失敗する。例えば、REVERSE()関数は CHAR データ型の引数が必要なため、検証に失敗します。 回避策: 動的な式で変換関数を使用してデータ型を指定します。例えば、REVERSE(TO_CHAR())関数内で動的なポートを追加します。
427263	夏時間 (TZD) 形式のタイムゾーン領域を持つ Timestamp with Time Zone データ型を指定できない。
426924	SAP HANA ソースの Decimal (38,38) カラムのルックアップ条件を設定すると、データのプレビューが失敗してマッピングが終了する。
426892	Timestamp with Time Zone データ型のタイムゾーンオフセットを指定するときにコロン以外の区切り文字を使用できない。 回避策: Timestamp with Time Zone データ型のタイムゾーンオフセットについて区切り文字をコロンに変更します。
426806	次の条件が当てはまる場合、フラットファイルソースを読み込むマッピングが実行時に完全に最適化されない場合がある。 - フラットファイルデータオブジェクトが、ソースファイルディレクトリに SourceDir システムパラメータを使用する。 - 個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドでマッピングが実行される。 回避策: ソースファイルディレクトリに文字列値またはユーザー定義のパラメータを使用するようにフラットファイルデータオブジェクトを設定します。
426613	Developer tool で、Binary データ型および Timestamp with Time Zone データ型を含む制御ファイルからカラムが不正に生成される。 回避策: 制御ファイルで Timestamp with Time Zone データ型について精度とスケールを (36,9) に設定します。制御ファイルから Binary データ型を含むカラムを削除します。

CR	説明
424593	パラメータを持つトランスフォーメーションをコピーすると、Developer tool でトランスフォーメーションのコピーにパラメータが含まれない。この問題は、パラメータを持つトランスフォーメーションを含むマッピングをコピーした場合にも起こります。
421946	大文字と小文字を区別するユーザー名を使用して Oracle 接続を作成すると、Developer tool でデフォルトのスキーマが表示されない。
413806	精度が 35 桁から 38 桁の Decimal データ型のカラムについて SAP HANA データを読み取ることができない。
409376	infacmd AddParameterSetEntries コマンドの直後に infacmd DeleteParameterSetEntries コマンドを実行して、コマンドを何度も繰り返した場合に infacmd AddParameterSetEntries コマンドが失敗する。
408000	入力スキーマを定義しない、または REST コンシューマ入力のルート要素に要求入力グループをマッピングしない場合、REST は失敗し、エラーメッセージは表示されない。
407604	カスタムポートを追加すると、再利用できない REST トランスフォーメーションにより、削除されたカスタムポートに新しいカスタムポートが間違って追加される。 回避策: トランスフォーメーションを再作成します。
404266	マップレットまたは論理データオブジェクトマッピングで再利用不可能なシーケンスジェネレータートランスフォーメーションを使用できない。ただし、再利用不可能なシーケンスジェネレータートランスフォーメーションをマッピングからコピーしてマップレットまたは論理データオブジェクトマッピングに貼り付けた場合、Developer tool で検証または実行時エラーが表示されません。
395353	式トランスフォーメーションで ABORT()関数を使用すると、データ統合サービスが式トランスフォーメーションを処理しない。 回避策: 出力ポートの初期値を 0 に変更し、マッピングを再実行します。
393416	デフォルトのマージファイル名を使用して、すべてのパーティションのターゲット出力を順次マージすると、パーティションマッピングが失敗する。 回避策: マージファイルのデフォルト名を変更します。
393023	ネイティブ SSL 接続を使用して Oracle テーブルにデータプレビューを実行するか、またはネイティブ SSL 接続を使用して Oracle データオブジェクトを含むマッピングを実行すると、Developer tool が予期せずにシャットダウンする。
391296	マルチバイトデータ値を含む確率モデルを作成すると、モデルのデータビューで値が複数行に分割されることがある。この問題は、Developer tool のビューのサイズを変更し、データビューのデータ値が 2 つの行の間で移動する場合に発生します。データ値に 2 行以上に分割されるラベルを割り当てると、ラベルは正しい値に関連付けられないことがあります。ラベル値は、データビューの別の値を上書きする可能性があります。 回避策: Developer tool のビューのサイズを変更し、データビューのデータ値が分割されないようにします。
387899	データ統合サービスが Microsoft SQL Server の Uniqueidentifier データ型にキャッシュされたルックアップとキャッシュされないルックアップを実行すると、同じ数の行を返さない。
375473	SQL データサービスクエリで長い WHERE 句が生成される場合、ソースへのプッシュダウンが失敗する。例えば、SQL クエリで 61 KB 以上の WHERE 句が生成される場合、ソースへのプッシュダウンが失敗します。 回避策: クエリの最適化レベルを下げるか、データ統合サービスを実行する JVM のメモリを増やします。

CR	説明
371793	<p>マッピングに複数の一致トランスフォーメーションが含まれる場合、一致トランスフォーメーションの 1 つの設定を変更すると、他の一致トランスフォーメーションの設定にも影響が及ぶことがある。この問題は、以下の条件が当てはまる場合に生じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一致トランスフォーメーションがマッピングデータフローで順次表示される。 - ID インデックスデータをデータベーステーブルに書き込むように一致トランスフォーメーションを設定している。 <p>回避策: 影響を受けた一致トランスフォーメーションを再設定します。</p>
356755	<p>キージェネレータトランスフォーメーションが一意のシーケンス ID 値を Hadoop 環境で生成できない。</p>

Informatica ドメインの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
443212	<p>モデルリポジトリで最大ヒープサイズ設定の最小値が要求される。最大ヒープサイズを推奨値の 1 GB に設定し、maxPermGen のサイズを 512 MB に設定します。設定をこれよりも低くすると、エラーが発生します。</p>
443186	<p>グループの作成ウィザードで親グループを選択すると、新しいグループが Native フォルダに表示されるが、親グループの下でネストされない。</p> <p>回避策: グループを作成したら、[アクション] > [グループの移動] をクリックして、親グループを選択します。</p>
443052	<p>次の条件が当てはまる場合、ワークフローマッピングタスクに含まれているマッピングの DTM ログファイルが DTM プロセスで作成されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 個別のリモートプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスが設定されている。 - ワークフローマッピングタスクに含まれているマッピングでマルチバイト文字が使用されている。
442371	<p>計算ロールのあるノードをデータ統合サービスグリッドから削除するか、グリッド上のノードの計算ロールを無効にすると、ノードがサービスの計算ビューに表示されなくなるが、以前にノードに設定された計算の値がサービスで保持されるため、ノードをグリッドに追加し直すか、計算ロールを再度有効にすると、デフォルト値ではなく以前の値でノードが設定される。</p> <p>回避策: ノードをグリッドに追加し直すか、計算ロールを再度有効にした後で、計算ビューのプロパティで正しい値が使用されていることを確認します。</p>
442102	<p>電子メールサービスでプロセスの環境変数がサポートされず、電子メールサービスプロセスに環境変数を設定しても、プロセスに反映されない。</p>
442043	<p>infacmd sch updateschedule コマンドを実行すると、スケジュールの終了日が [終了日なし] に変更される。終了日は、-ed オプションの値を指定したかどうかに関係なく変更されます。</p> <p>回避策: Informatica Administrator の [スケジュール] ビューを使用してスケジュールを更新します。</p>
441895	<p>23 時間ごとにジョブを実行するようにスケジュールすると、スケジューラサービスによって不適切なタイミングでジョブが実行される。</p>

CR	説明
441281	<p>個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドで複数のマッピングを同時に実行する場合、ランタイム統計を保存するようにモデルリポジトリが設定されていないと、一部のマッピングの実行が次のエラーで失敗することがある。</p> <p>[ICMD_10033] Command [runmapping] failed with error [com.informatica.ds.ms.service.MonitorHelper.purgeStatistics(MonitorHelper.java:125)]</p>
440876	<p>ワークフローデータベースが、デフォルト以外のスキーマを使用する Microsoft SQL Server データベースの場合、ワークフローリカバリに失敗する。</p>
440610	<p>次の条件が当てはまる場合、グリッドの計算ノードでマッピングが均等に分散されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 個別のリモートプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスが設定されている。 - データ統合サービスを再起動した直後に複数のマッピングを同時に実行する。
440143	<p>Kerberos 認証を使用するドメインの場合、Administrator ツールの一部のビューで、オペレータロールが割り当てられているユーザーに次のメッセージが表示される。</p> <p>モデルリポジトリが設定されていません。管理者に連絡してください。 これは、モデルリポジトリが設定されていても発生します。</p> <p>回避策: 監視用に設定されたモデルリポジトリサービスの管理者ロールをオペレータユーザーおよびグループに割り当てます。</p>
439709	<p>double データ型のカラムが含まれているフラットファイルデータソースがマッピングにある場合、数値以外の文字が含まれているため、拒否されるべきデータがデータ統合サービスで誤って読み取られる。例えば、12345678901234567890123456ab のような値が含まれている行は拒否されるべきですが、データ統合サービスで拒否されません。代わりに、数値が読み取られ、数値以外の文字が無視されます。</p>
439632	<p>次の条件が当てはまる場合、マッピングの統合ログファイルに正しくない DTM ログファイルが含まれることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 個別のリモートプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスが設定されている。 - マッピングタスクの実行数でマッピングタスクログファイルを保存するようにワークフローのマッピングタスクが設定されている。 <p>回避策: タイムスタンプでマッピングタスクログファイルを保存するようにマッピングタスクを設定します。</p>
439628	<p>次の条件が当てはまる場合、データ統合サービスグリッドで実行されるマッピングが無期限にハングすることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 個別のリモートプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスが設定されている。 - データ統合サービスが有効になり、マスタ計算ノードが選択された後でリソースマネージャサービスが使用できなくなる。 <p>回避策: リソースマネージャサービスを有効にして、マッピングの実行を続行します。</p>
438332	<p>Kerberos 認証を使用するドメインの Monitoring ツールの場合、[ログアウト] メニューでユーザーが Monitoring ツールからログアウトされない。</p> <p>回避策: Monitoring ツールからログアウトするには、ブラウザウィンドウを閉じます。</p>
437717	<p>Kerberos 認証を使用するドメインの場合、セッションの有効期限が切れた後に Administrator ツールにログインすると、[管理] および [モニタ] タブにログインページが表示されることがある。</p> <p>回避策: Administrator ツールからログアウトして、再度ログインします。</p>

CR	説明
436753	<p>データ統合サービスグリッドに割り当てられているノードの計算ロールを更新し、データ統合サービスをリサイクルすると、Informatica クライアントツール間で動作が一致しないことがある。例えば、マッピングの実行が infacmd コマンドラインプログラムでは失敗するが、Developer tool では成功するということが起こります。</p> <p>回避策: ドメインを再起動します。</p>
436587	<p>ノードをドメインに参加させてから、Administrator ツールでノードのプロパティが表示されるまで 10～15 秒かかる。</p>
436044	<p>実行中のワークフローアプリケーションを強制的に停止して、ワークフローアプリケーションを再デプロイすると、アプリケーションのデプロイに失敗し、ワークフローデータベースコンテンツを削除して再作成するまで別のワークフローインスタンスを実行できない。この問題は、データ統合サービスが大量のタスクを作成しようとしているときにワークフローを強制終了すると発生します。</p>
435815	<p>infacmd wfs abortWorkflow コマンドまたは infacmd wfs cancelWorkflow コマンドを実行するときに「wait」オプション[-w]を使用できない。</p>
435471	<p>Kerberos ドメインの場合、個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されているデータ統合サービスグリッドでマッピングの実行に失敗する。</p> <p>回避策: 個別のローカルプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスを設定します。</p>
433652	<p>リレーショナルデータオブジェクトをインポートし、制御ファイルを使用してオブジェクトの接続を指定すると、指定した接続が操作で無視されることがある。この問題は次の条件が当てはまる場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 前の操作でデータオブジェクトをエクスポートしている。 - オブジェクトの元のデータベース接続または同じ名前の接続がドメインに含まれている。 - 制御ファイルで指定した接続と同じ名前のデータベース接続がドメインに含まれている。 <p>条件が当てはまる場合、インポート操作で、元の名前のデータベース接続にリレーショナルデータオブジェクトが割り当てられます。オブジェクトが参照テーブルの場合、インポート操作に失敗します。</p> <p>回避策: 元のデータベース接続をドメインから削除し、データオブジェクトを再度インポートします。または、Developer tool でデータベース接続を更新します。</p>
432752	<p>ドメインで安全な通信が有効になっているのに、個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドがセキュアな接続を使用してリモート DTM プロセスと通信しない。</p>
432316	<p>個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドでマッピングを実行すると、infacmd コマンドラインプログラムやマッピングログでマッピングが失敗したことが示されていても、Administrator ツールの「モニタ」タブのマッピング状態が無期限に「実行中」として表示される。</p>
431892	<p>「実行時にターゲットを作成または置換する」オプションが有効になっていて、マッピングターゲット接続が JDBC の場合、データ統合サービスが入力データ型を、ターゲットデータベースでサポートされていない可能性のある ANSI データ型に変換する。次のようなメッセージが含まれるエラーが表示されることがあります。</p> <p>Error executing DDL [CREATE TABLE DDL_JDBC_FRM_TD...</p>
429227	<p>ノードの「ログコレクションディレクトリ」プロパティを設定すると、「ログコレクションディレクトリ」プロパティをクリアできない。</p>

CR	説明
427052	<p>データ統合サービスグリッドで Web サービス要求を実行する場合、サービスロールしかないノードを使用するように外部 HTTP ロードバランサを誤って設定すると、データ統合サービスからサービスロールと計算ロールの両方があるノードに要求がリダイレクトされず、サービスロールしかないノードにディスパッチされた一部の Web サービス要求が失敗することがある。</p> <p>回避策: サービスロールと計算ロールの両方があるノードを使用するように外部 HTTP ロードバランサを設定します。</p>
409289	<p>ユーザーが IMFCryptographer ファイルを使用して、参照権限のない、モデルリポジトリオブジェクトに関する情報が含まれるネットワークパケットを読み取ることができる。このアクセスを回避するには、Kerberos 認証を使用して、クライアントとサーバー間でパスワードが送信されないようにします。</p>

Metadata Manager の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
442486	<p>ビジネス用語を含んだビジネス用語集リソースをロードするとき、そのビジネス用語にルールアセットや Metadata Manager の関連付けられたアセットがある場合、Metadata Manager サービスは Metadata Manager の関連付けられたカタログオブジェクトを Analyst ツールの関連付けられたアセットと同期しない。ロードログには次のようなエラーが表示されます。</p> <p>BG リンクの移行に失敗しました..要求されたオブジェクトはカタログ内に存在しません。</p> <p>回避策: 関連付けられたカタログオブジェクトを関連付けられたアセットと同期するには、グロッサリをロードする前に用語からルールアセットの割り当てを解除します。ロードが完了したら、用語にルールアセットを再度割り当てます。</p>
442395	<p>rmu 移行ユーティリティを使用して 9.5.1 HotFix 2 リソースを移行する場合、次のエラーで移行に失敗する。</p> <p>ERROR - オプションを認識できません: -includePassword</p> <p>ERROR - リソースの移行に失敗しました: リソースタイプ-<Type>、ソースシステムのバージョン-<Version>、名前-<Name></p> <p>回避策: Metadata Manager ウェアハウスをバージョン 10.0 にアップグレードして、廃止されたリソースを移行します。</p>
441925	<p>特定のリソースのロードが不規則に失敗し、mm.log ファイルに次のエラーが記録される。</p> <p>[LoaderThread] ERROR TaskHandler - LineageGraphInternalLinksCreationTaskHandler でエラーが発生しました: com.orienttechnologies.orient.core.exception.ODatabaseException: レコード#<number>を保存しているときにエラーが発生しました</p> <p>回避策: 次のプロパティを imm.properties ファイルに追加して、デフォルト値よりも小さなプロパティ値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Lineage.PreCompute.ElementsInSingleTransaction。デフォルトは 50,000 です。 - Lineage.PreCompute.FetchBlockSize。デフォルトは 5000 です。
441860	<p>Metadata Manager リポジトリのデータベースタイプが Microsoft SQL Server で、データベース接続 URL にセキュア JDBC パラメータを使用する Metadata Manager サービスを作成した場合、Metadata Manager サービスがデータベースに接続できない。</p> <p>回避策: セキュア JDBC パラメータの文字列を引用符で囲みます。</p>

CR	説明
441322	Kerberos 認証を使用するドメインでビジネス用語集リソースをロードした後、ロードステータスが「ロードに成功しました;インデックス作成の成功;リンクされていません」にならずに「ロードに成功しました;インデックス作成の成功;リンク作成に失敗しました」になる。
440627	信頼関係接続を使用する Microsoft SQL Server リソースのロードが次のエラーで失敗する。 PowerCenter リポジトリにソース接続を作成できませんでした。
440560	類似するデータセットおよびストアプロシージャを持つ複数の PowerCenter リソースを同時にロードすると、次のエラーで失敗する。 LineageGraphInternalLinksCreationTaskHandler でエラーが発生しました 回避策: 一度に 1 つずつ PowerCenter リソースをロードしてください。
440343	パッケージ化されたリソースのオブジェクトを選択して、Microsoft Excel ファイルにエクスポートし、ビジネス名またはカスタム属性のいずれかを更新して、その Excel ファイルを再インポートすると、次のエラーでインポートが失敗する場合があります。 I/O エラーが発生しました。 回避策: エクスポートされた Excel ファイルを編集します。すべてのワークシートでルートパスをリソース名に変更して、そのファイルを再度インポートします。
439693	列挙されたリンクを使用するカスタムリソースをアップグレードすると、Metadata Manager で、列挙されたリンクファイル内の最初のオブジェクトのペアに対するデータリネージュリンクが表示されない。 回避策: 【ロード】 タブで、カスタムリソースのリンクを再作成します。
439498	バックスラッシュ記号 (\) が使用された用語名を含む Business Glossary リソースをロードした場合、次のエラーによりロードに失敗する。 行<number>の値が不完全です
432827	Metadata Manager では、動的マッピングのメタデータ抽出がサポートされていない。
426995	クラスレベルのリレーションが「いずれのモデル、いずれのクラス」のカスタムオブジェクトが PowerCenter マッピングにリンクされている場合、このオブジェクトに対するデータリネージュが誤ったものになる。
426758	Informatica プラットフォーム 10.x リソースを作成した場合、アプリケーション、パラメータセット、およびマッピングが選択リストに表示されるまで 15 秒以上の時間がかかる場合がある。
426241	[リソースの管理] 特権を保有していないユーザーがリソース構成ファイルをインポートしようとする、不十分な特権のエラーではなく次のエラーでインポートが失敗する。 インポートに失敗しました。mm.log をチェックしてください
420072	用語集名に異なる組み合わせの特殊文字が含まれる Business Glossary リソースをロードすると、内部エラーまたは Java ランタイム例外でロードが失敗することがある。
408950	ドメインで Kerberos 認証が使用されるとき、mmRepoCmd restoreRepository コマンドが機能しない。
395899	リネージュ図の 【検索】 ボタンを最初にクリックしたとき、検索結果が表示されない。 回避策: もう一度ボタンをクリックし、検索結果を表示します。

CR	説明
393548	Metadata Manager で、ビジネス用語の関連付けられたカタログオブジェクト名の最初の文字がスペースの場合、対応するデータアセットが Analyst ツールのビジネス用語集で更新されない。 また、ビジネス用語の関連するカタログオブジェクトの名前に次のいずれかの文字が含まれる場合、Analyst ツールのビジネス用語の URL が機能しない。 ' ~ ! @ # \$ % ^ & * () , / \ "
392215	Kerberos 認証を使用するドメインで Metadata Manager サービスをリサイクルする際に、Metadata Manager ユーザーは Metadata Manager Web アプリケーションにログインされたままになる。ユーザーが Web アプリケーションを使用しようとすると、Web アプリケーションは次のエラーを表示する。 セキュリティトークンが無効なので操作を完了できませんでした。 回避策: ブラウザを更新するか、またはウィンドウを閉じてから Metadata Manager Web アプリケーションに再度ログインします。
389601	「モデルの表示」特権を保有するユーザーは、カスタムモデルのロードテンプレートを取得できない。

PowerCenter 10.0 の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
442622	Microsoft SQL Server 接続で ODBC プロバイダタイプを使用している場合、エラーアクションを指定できない。
425055	Microsoft SQL Server ODBC 接続の【プロバイダタイプ】と【DSNの使用】オプションを pmrep UpdateConnection コマンドを使用して更新すると、そのコマンドが失敗する。
423523	Windows プラットフォームで、Sybase IQ 外部ローダーの接続を使用して Sybase IQ ターゲットにロードするクエリを実行し、Server Datafile ディレクトリにアクセスできない場合、セッションが停止する。 回避策: マッピングを実行する場合は、PowerCenter 統合サービスをホストする Windows マシンが Sybase IQ サーバーにアクセスできることを確認します。
392671	メタデータ Web サービスの特権のチェックに失敗する。

Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項 (10.0)

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
441871	アダプタプロジェクトをインポートしてメタデータを編集した後でメタデータをテストすると、メタデータテストに失敗する。 回避策: アダプタプロジェクトのワークスペースから build および sdk ディレクトリを削除し、接続のコードを再生成して、システムおよびネイティブメタデータを入力します。
441291	Linux 64 および AIX 64 プラットフォームで Informatica コネクタツールキットインストーラを使用できない。 回避策: 手動で Informatica コネクタツールキットを Linux または AIX プラットフォームにインストールする方法については、『Informatica コネクタツールキット Developer ガイド』の「Linux または AIX への Informatica コネクタツールキットのインストール」セクションを参照してください。
438209	フィルタ操作で Datetime データ型を使用すると、アダプタの読み取り機能をテストできない。 回避策: Informatica Developer クライアントを使用して、Datetime データ型をテストします。
438203	同じ名前だが大文字と小文字が異なるネイティブメタデータオブジェクトを作成すると、コードの生成に失敗する。 回避策: ネイティブメタデータオブジェクトごとに異なる名前を使用します。
435998	依存フィールドのある接続属性を編集すると、接続属性に対して行われた変更がテスト接続ウィザードに表示されない。

第 6 章

Informatica のサードパーティ製品に関する制限事項

この章では、以下の項目について説明します。

- [Big Data サードパーティ製品に関する制限事項, 53 ページ](#)
- [Informatica Developer のサードパーティ製品に関する制限事項, 54 ページ](#)
- [Metadata Manager のサードパーティ製品に関する既知の制限事項, 55 ページ](#)
- [PowerCenter のサードパーティ製品に関する制限事項, 55 ページ](#)

Big Data サードパーティ製品に関する制限事項

以下の表に、サードパーティ製品に関する制限事項を示します。

CR	説明
438965	MapR 4.0.2 YARN および MapR 4.0.2 ディストリビューションでドメイン検出を使用してプロファイルを実行すると、あいまいなカラムの参照エラーでプロファイルに失敗する。
429137	MapR ディストリビューションフォルダへのパスが長すぎると、MapR クラスタの Blaze エンジンを使用するマッピングに失敗する。 回避策: MapR ディストリビューションフォルダへのシンボリックリンクを作成します。 Hadoop クラスタの各ノードで次のコマンドを実行します。 <code>ln -s <Informatica installation directory>/services/shared/hadoop/mapr_<version> <link name></code> シンボリックリンクを作成したら、hadoopEnv.properties の infagrid.dis.hadoop.dist プロパティおよび MAPR_HOME システム環境変数に追加する必要があります。

CR	説明
410437	<p>ターゲット IBM DB2 テーブルのユーザー名またはパスワードが 8 文字を超えると、Hive 環境でマッピングが失敗し、Hadoop クラスタログに次のエラーが表示される。</p> <p>次により発生: java.io.IOException: マッピングの実行が次のエラーにより失敗しました: WRT_8001 データベースへの接続エラー... WRT_8001 [セッションWrite_EMP_OUT5_MAPPING_3285816766724683 ユーザー名 test_it2 DB エラー -1 [IBM] [CLI ドライバ] SQL30082N セキュリティの処理が次の理由で失敗しました「24」(「USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID」)。SQLSTATE=08001</p> <p>回避策: IBM DB2 データベースのユーザー名とパスワードが 8 文字以下であることを確認します。</p>
398978	<p>Teradata Connector for Hadoop (TDCH) を使用し、Kerberos 認証を使用する Hadoop クラスタで実行する場合、マッピングが失敗する。</p> <p>回避策: kinit コマンドを使用し、マッピングを実行する前にすべてのクラスタノードで有効なチケットを生成します。</p>

Informatica Developer のサードパーティ製品に関する制限事項

以下の表にサードパーティの既知の制限事項を示します。

CR	説明
442760	<p>ODBC 接続を使用して、Teradata クライアントバージョン 15.10.0.1 にデータを書き込むと、データ統合サービスで数値データ型のデータが拒否される。</p> <p>Teradata チケットの参照番号: RECGNXLML</p>
439606	<p>Teradata ターゲットの 5 番目の位置に CHAR または VARCHAR データ型のカラムが含まれていると、データ統合サービスで NULL 値がカラムに書き込まれる。この問題は、ODBC 接続を使用してデータを書き込む場合に発生します。</p> <p>DataDirect の事例参照番号: 00324380</p>
424900	<p>Sybase データオブジェクトスキーマを定義する.xsd ファイルから作成された論理データオブジェクトモデルを検証すると検証エラーが発生することがあり、検証エラーには、精度とデータ型の不一致がレポートされる。</p> <p>回避策: 続行する前に論理データオブジェクトモデルのデータ型の不一致を手動で修正します。</p> <p>MITI の事例番号: INFDEV-41</p>
414220	<p>精度が 38 桁の Decimal データ型の SAP HANA データベースのデータをプレビューすると、データプレビューが継続的に実行され、マッピングを実行すると、エラーで失敗する。</p> <p>SAP チケットの参照番号: 0000624569 2015</p>
413119	<p>Timestamp with Time Zone データ型のメタデータをインポートすると、このデータ型のスケールが 6 ではなく 0 として表示される。</p> <p>DataDirect の参照番号: 00310850</p>

CR	説明
410495	AIX オペレーティングシステムでは、AIX の SAP HANA データベースとの安全な通信を SSL プロトコルで有効にすると、マッピングが予期せず終了する。 SAP チケットの参照番号: 0001101086
395943	MySQL テーブル名に特殊文字が含まれていると、Developer tool でカラムが一部インポートされない。この問題は、DataDirect ODBC および JDBC ドライバを使用してメタデータをインポートする場合に発生します。 DataDirect チケットの参照番号: 00322369

Metadata Manager のサードパーティ製品に関する既知の制限事項

以下の表にサードパーティの既知の制限事項を示します。

CR	説明
370702	Oracle メタデータソースに対して安全な通信が有効にされている場合、Oracle リソースを作成できない。同様に、安全な通信が有効にされていると Oracle データベース上に Metadata Manager リポジトリを設定できない。 Oracle SR 番号: 3-8287328531

PowerCenter のサードパーティ製品に関する制限事項

以下の表にサードパーティの既知の制限事項を示します。

CR	説明
439606	Teradata ターゲットの 5 番目の位置に CHAR または VARCHAR データ型のカラムがある場合、PowerCenter 統合サービスがそのカラムに NULL 値を書き込む。この問題は、ODBC 接続を使用してデータを書き込む場合に発生します。 DataDirect の事例参照番号: 00324380
438011	Red Hat Linux バージョン 7.0 オペレーティングシステムで、Teradata ODBC 接続に Kerberos 認証を設定した場合、接続に失敗する。 Teradata インシデント参照番号: RECGLT7AL
410495	AIX オペレーティングシステムでは、SAP HANA データベースへの安全な接続を SSL プロトコルで有効にすると、セッションが突然シャットダウンする。 SAP チケットの参照番号: 0001101086

CR	説明
393899	Oracle 12c データベースを Kerberos 認証用に設定できない。 Oracle SR 番号: 3-8990776511
373732	Oracle データベースに対して安全な通信が有効にされている場合、Oracle ソースからデータを読み取るセッションまたは Oracle ターゲットにデータを書き込むセッションが失敗することがある。セキュアな Oracle データベースに対してデータベースルックアップを実行すると、セッションが失敗しやすくなります。 回避策: Informatica グローバルカスタマサポートにご連絡ください。参照 Oracle SR 番号: 3-8287328531.

第 7 章

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインサポートからカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートのご利用には、ユーザー名とパスワードが必要です。<http://mysupport.informatica.com> から、ユーザー名とパスワードが入手できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers/> に掲載されています。